

かくどけい

KAKUDOKEI 2012

105号

Physical Therapist



KPTA
熊本県理学療法士協会

平成 24 年 9 月 25 日 発刊



- 001 巻頭言 「 ロンドンパラリンピックで熱く 」 坂崎 浩一
- 002 理事会報告
- 007 各部・委員会報告
- 渉外部
法人事業審議委員会
宣伝部
教育部
規約審議委員会
学術部
生涯学習部
保険部
福祉部
- 014 学会・研修会のお知らせ① 「介護教室」
- 015 第10回くまもと「PTあ！（ピタ）」と健康講座 開催報告
- 016 学術事業部文献紹介
- 018 事務局だより
- 019 大観望 「成長」 大籠 安男
「夜間部の学生達」 奥村 哲生
- 020 くまもと北から南から
- 022 第17回 熊本県理学療法士学会のお知らせ
- 024 他士会便り 「オ・ア・シ・ス」 福岡県 No. 188
- 学会・研修会のお知らせ② 「理学療法士講習会(基礎)」
- 025 学会・研修会印象記
- 026 医療・介護ナビ お役立ち便利グッズ紹介
- 027 よろず運動療法相談所 ～呼吸小委員会～ 「運動時の息切れへの対応」
- 028 くまもとの理学療法情報 PT Walker 熊本
- 029 賛助会員一覧
編集後記
- 030 事業予定表

熊本県理学療法士協会広報部では皆様からの投稿をお待ちしております。医療や介護に関するトピックスや学会・研修会・勉強会の情報など理学療法士として伝えたい情報をお寄せください。

発行 奇数月の月末 6回/年

投稿の方法 協会事務局に原則としてメールで送付してください。

原稿の採択 「投稿規定」に則りその内容を検討し、掲載可否について審議し決定します。なお掲載にあたり、広報部より誌面の関係上原稿について執筆者との協議を通じて、内容の変更をお願いすることがあります。

お問合せ先 (社) 熊本県理学療法士協会事務局

TEL 096-389-6463

E-mail kpta_kat@mtg.biglobe.ne.jp

『 ロンドンパラリンピックで熱く 』

社団法人 熊本県理学療法士協会

専務理事 坂崎浩一

(熊本総合医療リハビリテーション学院)

酷暑の夏も終わりを告げました。熊本市の藤崎宮秋の例大祭頃の気温の変化を随兵寒合（ずいびょうがんや）と言いますが、まさに秋の気配を感じる今日この頃です。この暑かった夏を振り返ってみますと、その始まりは計画停電からでした。あまり馴染みのない計画停電の実施にあたり職場でも子細なる予定表が配られました。私の携帯電話にも毎日の電力使用状況が mail でも届いていました。高齢の方々の熱中症も大変気になるところではありましたが、幸いにも停電の実施に及ぶことなく秋を迎えることができました。

また、この夏『経験したことのない大雨』が重なり、河川氾濫・土砂災害となって九州を襲いました。私にとっても最も身近な河川の白川が、濁流と化し家々を飲み込む映像は、自然の力というべき範疇を超え、憎々しくも思えるものでした。月日の経過と共に復旧が進んでいるようですが、亡くなられた方々をはじめ被災された方々には心よりお悔やみとお見舞いを申し上げる次第です。

一方ロンドンオリンピックでは、各競技における日本人の活躍に大いに盛り上がりました。深夜の放送に寝不足の日々が続いた方も多くいらっしゃったのではないのでしょうか。個人的には時折遊び程度に卓球をやりますので、卓球女子の団体銀メダルには大変感動しました。

もう一つ大変楽しみにしていたのが、8月29日から9月9日迄の12日間開催されたロンドン2012パラリンピック競技大会でした。イギリスは障害者スポーツ発祥の地。第2次世界大戦終了後、ロンドン郊外のストーク・マンデビル病院の医師ルードウィッヒ・グットマン卿が、退役軍人等脊髄損傷の患者に対してスポーツを治療に取り入れたのが始まりでした。その後国際的な広がりを見せ、1960年のローマ大会が第1回と位置づけられ今回で14回目です。夏の大会の正式種目は、陸上競技・水泳・車いすテニス・ボッチャ・卓球・柔道・自転車等々20種目。日本からも選手役員250名を超える選手団を派遣、17種目に出場。熱い戦いを繰り広げ、金銀銅16個のメダルを獲得しました。前回大会程にはメダル数は伸びなかったようでしたが、障害を乗り越え取り組むその姿には心よりの拍手を贈りたいと思います。

昨今障害者スポーツがニュースをはじめ、ワイドショーやドキュメント番組として報道される機会が増えたことは大変嬉しく思います。パラリンピックの時期にとどまらず、スポーツニュースの常連になることを願ってやみません。運動に最適なこの時期、県内でも障害者スポーツの大会やイベントが各地で開催されるようです。多くの方に足を運んで欲しいと思います。

パラリンピック、録画したままでまだ見ていない競技がいくつかあります。秋の夜長、その余韻を楽しみつつ視聴したいと思っています。



理事会報告

平成24年度第4回理事会議事録（要約版）

日時：平成24年6月6日（水）17:00～21:30

場所：熊本総合医療リハビリテーション学院

出席者：

（理事）北里・大島・前田・坂崎・飯星・大脇・川上・

佐藤・三宮・田島・筒井・野津原・野間・増田・光本

（監事）中島

（部長）南野（生涯学習部）

（事務職員）石黒・前田（事務局員）坂本・山内

欠席者：（監事）寺川（相談役）森重

（事務局員）山本・福島・久米野

書記：清田・平川（北部脳神経外科・神経内科）

1. 報告事項

1) 特別委員会報告

◇公益法人対策特別委員会

（前田）5月24日に県庁に資料提出等対応中。

◇情報共有推進特別委員会

（田島）今月は無し。

◇訪問リハ対策特別委員会

（増田）熊本市健康フェスティバルと連動企画してシンポジウムを開催する方向で調整中。

（光本）5月27日に第1回訪問リハビリテーション実務者研修会を保健科学大学で開催。研修教育プログラムでも今後の方向性について課題提示有り。

◇渉外活動推進特別委員会

（坂崎）報告事項はない。

◇組織検討特別委員会

（会長）近々分野別小委員会の委員長との合同会議を開催したい。

2) 医専連30周年記念誌発行予定について

【田島理事】

（田島）各団体に1ページの割り当て。会長名による団体の紹介を記載する方向である。また当協会として何部必要か再度検討して欲しいとのこと。

3) 平成24年度事業計画等の修正・変更について

○第2回学術研修会

【変更前】

テーマ：「足底板療法の最新知見」

定員：50名

【変更後】

テーマ：「カウンター理論に基づく治療

～徒手誘導と新たなテーピング～」

定員：60名

○第1回小児勉強会

【変更前】

事業名：第1回小児勉強会 期日：平成24年9月

場所：ウェルパルクまもと

テーマ：「発達について」 講師：調整中

対象：会員並びに医療関連職種、保護者

【変更後】

事業名：第4回小児領域研修会

期日：平成24年8月26日（日）

場所：九州中央リハビリテーション学院

対象：会員並びに医療関連職種、保育関係者

テーマ：「今すぐ役立つ摂食訓練、言語訓練

～基本概念と実際～」

講師：下田祐輝氏（熊本市健康福祉子ども局

障がい者福祉相談所、言語聴覚士）

○第2回小児勉強会

【変更前】

事業名：第2回小児勉強会 期日：平成25年2月

場所：調整中 テーマ：「実際の治療の進め方」

講師：調整中

対象：会員並びに医療関連職種

【変更後】

事業名：第5回小児領域研修会

期日：平成24年11月11日（日）

場所：九州中央リハビリテーション学院

テーマ：「今すぐ役立つS I療法

～基本概念と実際～」

講師：森本誠司氏

(熊本保健科学大学助教、作業療法士)

対象：会員並びに医療関連職種、保育関係者

○第11回テーピング講習会(膝関節編)

【変更前】期 日：調整中

【変更後】期 日：平成24年7月8日(日)

2. 協議事項

1) 生涯学習部部長交代について【教育学术局】

現任の星澤部長が体調不良のため、急遽後任として現副部長の南野(氏)を推薦する。

(理事)了承。(16名/16名)

2) 新人研修会懇親会の予算について【厚生部】

火の国ハイツでは「宴会会場費」として、21,000円が別途加算となった。

(坂崎)以前の参加者は「研修プラン」として対応できたが、近年宿泊・懇親会の参加者が少なくなりこのプランが組めなくなっている。そのため懇親会の会場費がまた別途必要で旨連絡があった。

(会長)申し込みの時点での会場費の話は？

(坂崎)話はなかった。

(会長)21,000円が必要になるが、補填することによいか。

(理事)了承。(16名/16名)

3) 新人研修会懇親会のアンケートについて

【厚生部】

(光本)新人研修会の懇親会について検討すべき時期が来ている。新人の意見を伺うべく厚生部でアンケートを作成したので、検討頂きたい。

(野間)参加しない人の意見の取り込みは？

(光本)懇親会不参加の理由の質問を用意した。

(会長)研修会参加者全員にアンケートを実施。

(佐藤)アンケートは参加者増を検討するためか。

(光本)懇親会不参加の理由を知るためである。

(佐藤)懇親会を止める方向での話か。

(三宮)懇親会のあり方はニュートラルに捉えるべき。会場選択や時間帯などさまざまな視点から検討したい。

(坂崎)アンケート結果も踏まえての検討が必要。

(光本)厚生部では宿泊研修の開催自体を検討したい旨の話が上がっている。

(会長)アンケートに関しては中立的立場で質問内容を検討したい。一泊研修の開催については別の協議としたい。アンケートを行うこと自体は了承してもよろしいか。

(理事)了承。(16名/16名)

(中島)懇親会を今後行わないという方向で行くのならば、厚生部で代案を提出して欲しい。

4) 広報誌「かくどけい」のリニューアルについて

【佐藤理事】

公益性のある団体として外部への情報発信も必要。広報誌「かくどけい」においてはホームページに現在のコンテンツのほとんどが移行可能と考える。広報機能の強化という観点から対象を外部に向けた一般向けの機関紙に変更してはどうか。

(会長)「かくどけい」をホームページに載せるだけでなく、一般向けの広報誌として発行するということか。

(佐藤)活動報告以外の数ページプラスアルファで新しい広報誌ができるのではないか。

(会長)その広報誌は「PTあ！」のように、外向きの機関誌と捉えるということか。意見はないか。

(坂崎)公益性の点からも好ましい。

(佐藤)予算の面もある。ただ、発行頻度は年2回など少なくなると考える。

(野間)各部で特集のネタは持ちえているのか。

(佐藤)年に2回程度であれば、すでにホームページ上にそういった掲載をしているところもある。

(会長)さらに検討が必要。また、部によって差があり報告を適宜行うよう努めなければならない。

組織検討委員会の中でも広報に関しては内向け・外向けそれぞれの戦略的な広報を行う旨があがっている。外向けの広報で「かくどけい」をリニューアルする事は良案と考える。予算の問題もあるため、今年度途中からの変更は難しいが、来年度以降から徐々に進めていく方向である。

(大脇) TwitterやFacebookも便利である。

(会長) 情報公開の範囲も含め次の議題にしたい。

5) ロゴマークの活用について 【佐藤理事】

(佐藤) 協会のロゴマークが新しくなったが、各部署での活用状況に差がでてきている。使用方法に関してのマニュアル作成をしたい。

(会長) イメージ戦略という点で上手く使えれば有効だと思う。ロゴマークを活用しようという方向性は了承できる。マニュアル作成については一度佐藤理事にたたき台を作ってもらい、出来次第理事会に提出して欲しい。

6) その他

(会長) 提案が2点。組織検討特別委員会に分野別小委員会委員長に参会頂きたい。ついては野原理事に日程調節をお願いしたい。

あと1点。地域包括ケア計画は2025年に完成を目標に進めているが、各地域包括支援センターでも地域包括ケアを立てつつある。その中には看護師も含め、理学療法士の参画するという話もある。実際に地域包括センターに理学療法士が参画しているところはあまりない。ついてはこれの対応のためのプロジェクトを作りたい。チームを作ることには了承していただけるか。

(理事) 了承。(15名/16名)

(会長) それでは、理事役員も参加するが、一般の方にも公募する形で広く意見を募りたい。

(野間) メンバーの中にソーシャルワーカー協会の会員を入れるということはあるのか。

(会長) 実働の際はある。マスタープランを見てもらうと分かるが、地域包括ケアプログラムのなかに理学療法士がどんな風に組み込んでいけるかを検討するというのが今年のプランになっている。そのため、最初は協会会員、理学療法士のみで検討したい。

以上閉会

平成24年度 第5回理事会議事録 (要約)

日時：平成24年7月4日(水)19:00~21:30

場所：熊本総合医療リハビリテーション学院

出席者：

(理事) 北里・大島・前田・坂崎・飯星・大脇・川上・
佐藤・筒井・野間・増田・光本

(監事) 寺川・中島 (事務局員) 山内

(事務職員) 石黒・前田

欠席者：

(理事) 三宮・田島・野津原 (相談役) 森重

(事務局員) 山本・福島・久米野・坂本

書記：佐野・市原(江南病院)

1. 報告事項

1) 特別委員会報告

◇公益法人対策特別委員会

(前田) 6月13日県庁に申請を行った。7月に継続して審議が行われる。

◇情報共有推進化特別委員会

(筒井) 研修会申し込みは、「会員ログイン」ページから申込むよう推奨する。「理学療法士の方へ」のページにて会員・非会員の金額表示を明確にすることで会員メリットを強調する。

(会長) 研修会内容のホームページに掲載に際し、会員価格と会員外価格を掲示し、会員メリットを強調すると、会員登録が進むのでは。

◇訪問リハ対策特別委員会

(大脇) ①総合シンポジウムに関しては、内容とシンポジストを決めて、8月にポスターにする。

②ケアマネ向けのアンケートも引き続き実施。

③専門チームでは事例集の作成とHPのアップ。

④研修協議会からの報告では200人規模で計画しているが年々参加者も減少。次年度から事業を縮小。

⑤今年度からテキストを冊子化し全員に配布。

⑥次年度も訪問リハ対策特別委員会を継続すべきか、専門チームを独立して稼働するのか検討。

◇渉外活動推進特別委員会

(会長)2月17日熊本城マラソンが予定されている。

◇組織検討特別委員会

(会長)7月17日に分野別小委員会と合同会議予定。

2) 次年度熊本市民健康フェスティバルについて

【大島副会長】

平成24年度熊本市民健康フェスティバル

10月13日(土)・14日(日)10:00~16:30

くまもと県民交流館パレア・鶴屋東館

3) 生涯学習部に関わる三役会検討結果報告

【大島副会長】

<検討内容及び結果>

①平成22年度以前の未登録者の取り扱いについて

⇒県協会より全国理事会への提出議題とする

②次年度の新プロ研修会のあり方について

⇒厚生部と切り離して教育学術局にて検討

③当会事業の認定・専門研修の取り扱いについて

⇒要件を満たす研修会は原則登録する。

④協会パソコンとカードリーダーの運用について

⇒7月8日開催の卒後教育研修会時に試験的運用をおこなう

⇒管理上個人情報取り扱い等問題点がある。

⇒パソコン等物品購入について調整が必要。

4) 在宅サービス手引書編集委員会について

【川上理事】

(川上)アンケートのまとめと今後の方向性を検討予定。冊子は残し、Web版は改善予定。今年度は介護保険の改定情報を変更。Web版は専門者向けに。

5) 日本理学療法士協会倫理委員会報告

【増田理事】

6月9日の代議員総会では不祥事にて1名の会員が除籍。

6) 『PTあ!(ピタ)』っと健康講座報告

○6/29時点での申し込み数:約650名

○6/22~8/5:KKTにて告知CM放送。

2. 協議事項

1) 第17回理学療法士学会会期変更について

【学会評議員会】

【変更後】期日:平成25年2月24日(日)

(会長)日程変更に関して承認していただけるか。

(理事)了承。(11/11名)

(筒井)昼食は授産施設に限定した公募としたい。

(会長)業者に関しては今後公募することで承認いただきたい。

(理事)了承。(11/11名)

2) 一般向けHP充実に向けた企画への記事について

【IT事業部】

社会的弱者の避難や熊本県での防災のあり方等について纏められている溝田康司氏に連載をお願いしたい。

(中島)IT事業部は管理運営が役割だと考えていたが、今後このような企画がでるならば、他部とコラボも検討頂きたい。

(会長)今後組織編制を考える上で検討したい。

3) 医専連代議員等の推薦について

【事務局】

代議員(理事候補):田島理事

代議員:増田理事 予備代議員:佐藤理事)

以上に決定。

4) 応募フォーム既存項目修正のお願い【学術部】

(要旨)HP上での応募フォーム変更に関する提案。

(会長)次週の部長会で再検討する。

5) 全国会長会議提出議題について

【北里会長】

①診療報酬が勤務体制によって給与が異なる。

②週の算定限度の見直しについて

6) 日本理学療法士協会「施設推薦のお願い」について **【北里会長】**

クリニックの現状が把握できず協会から国への要望項目に反映できていない。クリニック関係の調査協力施設を5施設推薦頂きたい。

7) 理学療法士が介入した効果をdata baseとして蓄積するようなシステム構築について **【筒井理事】**

職能を裏打ちするデータ収集を理学療法士協会でも独自で調査しdata baseを構築しなければならない。

(会長)提出議題とする。理学療法士のエビデンス確立のためには学術的データは今後ますます必要。各部でも必要なデータ収集を検討頂きたい。

8) 平成25年度の訪問リハ対策特別委員会の方向性について **【訪問リハ対策特別委員会】**

公益法人化に伴い次度から新組織としての活動予定。平成25年度の本委員会の位置付け等について、以下の内容にて理事会に議題提出する。

- (1) 訪問リハ対策特別委員会の継続（1年期限）
- (2) 専門性チームを独立する

(会長)介護保険小委員会は現在存在しない。

(大島)この組織をどう組織委員会に組み込んで行くのかを検討し始めたのが小委員会立ち上げの始まり。今後の方向性に関して示して頂きたい(野間)地域包括ケアシステムの中で、理学療法士がどう介入していくか考える必要あり。

(会長)地域包括支援について、今年度はプロジェクトチームとして活動していくが、次年度からは組織に組み込む。組織検討委員会内容については、資料を送付するので、各自検討いただきたい。

9) 広報誌「かくどけい」のリニューアルについて (第4回理事会継続審議) **【佐藤理事】**

(佐藤)「かくどけい」を一般向けにしていくには、ホームページの充実化が必要。どこが管理していくのかをはっきりしていただきたい。軌道に乗れば移行できるのではないかな。

(会長) IT事業部、情報共有化特別委員会ともあわせて話をすすめてほしい。

(坂崎)最終的には外部に向けていくという方向性を認識できたため、その視点で書いていく。

10) ロゴマークの活用について

(第4回理事会継続審議) **【佐藤理事】**

(佐藤)数種のロゴマークと使用禁止例をマニュアルにした。別紙参照していただきたい。

(会長)規程に沿って使用頂きたい。

※新人研修会懇親会のアンケートについて

(第4回理事会継続審議) **【厚生部】**

アンケート配布済(6/30)

(光本)現在187枚部回収、今後まとめていく。

11) その他

・部長会議について

(坂崎)部長会について、今回は生涯学習システムに特化した内容にしたい。

・新人研修プログラム登録状況について

(会長)各施設に調査をする。確実に行うためにブロック毎に取りまとめてもらう。

・地域包括ケアプロジェクトチーム立ち上げについて

(会長)地域活動に協会としても取り組みたい。

(理事)了承。

◆監事より◆

(中島)理事会は検討の場だけでなく、決定する場であるということを再認識するべき。具体的には当事者が欠席で理事会が判断できる材料が乏しいという現状をなくす。各担当理事が委員会であがった課題をある程度解決し、理事会の判断を仰がなければならない内容だけをこの場で話し合う意識を持つことが必要。

(会長)理事会での準備不足をなくしていきたい。

以上、閉会

各部・委員会報告

渉外部 部長 坂崎 浩一

・第39回市民講座&平成24年度医専連シンポジウム

日時：平成24年9月29日（土）13:00～15:30

会場：熊本市医師会館

内容：市民講座「うつ病を正しく理解するために」
シンポジウム「地域でのリハビリテーション活動と現状」

今年度は熊本県理学療法士協会が医専連シンポジウム担当。

担当：増田理事

・熊日スミセイさわやか介護セミナー調整

日時：12月上旬にて調整中

担当：光本理事

・第6回熊本県医療・保健・福祉連携学会

日時：平成25年3月2日（土）

会場：鶴屋ホール・パレア

テーマ：「くまもとの医療・保健・福祉のネットワーク」

担当：野間理事

・第2回JIMTEF災害医療研修コースにおける推薦者調整

推薦者：林 寿恵PT（阿蘇温泉病院）

法人事業審議委員会 委員長 大籠 安男

- 平成24年度上半期の報告をさせていただきます。
委員会会議の開催：4/20、6/5、8/7、9/25(予定)
- 4月会議：当委員会の今後の活動に関して意見交換。
- 6月会議：第41回全国理学療法士協会定時総会資料をもとに、会長並びに5名の代議員へ各部局の事業について調査報告。
- 8月会議：日本理学療法士協会理事会資料をもとに各部局の事業について調査報告。熊本県理学療法士協会理事会資料をもとに各種事業について委員メンバー内での情報共有。
- 9月会議：全国士会長会議資料をもとに各種事業についての調査報告（予定）。

我々が所属する日本理学療法士協会の動向として、協会組織の抜本的改訂、戦略的広報（広報センター構想）、訪問リハステーション…等々、重要案件が山積している状況下、“闘える組織化”を進めてあります。今年度より公益社団法人となり、さらに国民利益への責務を担うこととなります。わが熊本県理学療法士協会も公益法人となり、当協会の理念にもある「県民に対する保健・医療及び福祉の発展に寄与する」ため、我々一人一人の行動が問われます。我々は何ができるのか、今何をすべきか、一緒に考えましょう！！

宣伝部 部長 草野 隆夫

平成24年7月11日（水）19:00～ 部長会議

場所：熊本総合医療リハビリテーション学院

参加者：草野

平成24年7月18日（水）9:00～ 抽選会参加

市役所にて、コミュニティーボードへのポスター掲示が可能になるための抽選会に参加し当選する。熊本市内のコミュニティーボード20箇所に掲示可能となる。その日からポスター掲示を開始。

担当者：宣伝部員

平成24年8月2日（木）19:30～ 事業部会議

場所：菊南病院

参加者：草野、佐田

会議内容：第10回くまもと「PTあ！（ピタ）」っと健康講座の動員打合せ

平成24年8月5日（日）8:15～ 動員

第10回くまもと「PTあ！（ピタ）」っと健康講座

場所：市民会館崇城大学ホール

参加者：草野、宮本、佐田、林、岩崎、木下、桑原、石田

内容：会場ホール係

ユニホームの貸し出し

平成24年8月5日（日） 事業部の活動にて

平成24年8月18日（土）・19日（日）

学術部の活動にて

平成24年9月2日（日） 学術部の活動にて

～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．
 7月11日～14日にかけて起こった九州北部豪雨では、県内でも阿蘇市を中心に多くの方々が被災されました。心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

教育部 部員一同

～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．
 いつもお世話になっております。教育部の前田です。この号が出る頃は秋の運動会シーズン到来ですね。保育園児などの親御さんは子供さんの成長を見るチャンスです！楽しみですね♪

さて教育部では、技術系の研修会とは一線を画した形で、教育研修会を中心とした事業を展開しております。多くの会員の皆様にご参加いただきますようお願いいたします。

☆各班の活動です

◎卒後教育班：各ブロック・地区での卒後教育研修会（初級編・中級編）は、皆様のご協力の下、随時開催されています。卒後教育班では、各ブロック・地区の皆様へ、よりスムーズに研修会を開催・受講していただけるよう、開催担当の皆様と連絡を取り合っております。ご意見・ご要望がありましたら、今後の参考にいたしますので、ぜひ協会ホームページのお問い合わせフォーム、もしくは教育部長のE-Mailアドレスへご意見をお寄せ下さい。

また皆様ご存知の通り、今年度から公益社団法人日本理学療法士協会生涯学習システムが変更になりました。それに伴い、教育部では卒後教育班を中心に生涯学習部と協議をしながら卒後教育研修会等のシステムを検討しております。今年度は様々な面でご不便をお掛けしますが、ご理解のほどよろしくお願い致します。

◎臨床実習教育班：通算7回目の研修会は1月に開催予定で現在準備中です。臨床実習教育の基礎について研修会と「熊本県版スーパーバイザーの手引き」の読み合わせ会を開催する予定です。こちらはこれからSVになる方や、SVの経験が浅く指導に悩んでいらっしゃる方は必聴です。準備が出来次第正式にお知らせいたしますので、是非ご参加下さい。

さて！「熊本県版スーパーバイザーの手引き」はもうお読みいただきましたか？各施設1部の配布ですが、PDFにて熊本県理学療法士協会ホームページ

(<http://www.kumamoto-pt.org/>)よりダウンロードできますのでぜひご一読いただき、臨床実習教育の参考にいただければと思っております。ご意見もどしどしお寄せ下さい。皆様の力でこの手引きを育てていきましょう。

◎管理・運営教育班：管理者教育カリキュラム（第1ステージ）第2クールが8月16日（木）～17日（金）に行なわれ、早くも折り返し地点に到達いたしました。青磁野リハビリテーション病院の徳丸由美子先生より「コミュニケーションスキル」と「チームビルディング」について、国立病院機構熊本医療センターの野村一俊先生と熊本市市民病院の橋本洋一郎先生から「地域医療連携（大腿骨近位部骨折とCVA）」についてGWやディスカッションを交えてみっちりのご講義いただきました。参加された皆様もとても真剣に受講されました。10月には第3クールで熊本大学医学部附属病院医療の質管理センターの菊池健先生から「マネジメント」について、熊本大学の吉田道雄先生から「グループ・ダイナミクス」についてご講義いただきます。今年も良い学びが提供できるように班員一同頑張っております。また、第2ステージについても検討中です。皆様からも、ぜひ受講したいという項目等ございましたら、どしどしご意見下さい。

☆教育部のビジョンは...

- 現状における臨床実習教育の課題を抽出し、標準的指導指針を模索する。そのテキストとして、日本理学療法士協会発行の臨床実習の手引き（第5版）を用い、養成校、臨床実習施設の共通目標を確認する。
- 理学療法士としての専門的知識や技術の重要性もさることながら、卒前教育の限界と卒後教育での課題と思われる基礎的な項目の習得の一助となる教育システムの構築を行う。
- 上記内容を把握し、人材（財）育成、組織的管理のできる管理者を育成し、理学療法士の職域拡大や就労後の教育レベルの向上を図る。

教育部に対するご意見・ご要望等ございましたら、私（前田） rptmaeda@yahoo.co.jp までご連絡下さい。

今回の活動内容について報告させていただきます。

<平成24年7月5日>

広報部とIT事業部によるミーティング日程調整。7月9日（月）熊本機能病院で開催することで了承。

<平成24年7月8日>

広報誌「かくどけい」投稿規定及びホームページ投稿規程の見直しと改定案の作成。7月9日（月）ミーティングで各担当部に提示予定。

<平成24年7月9日>

機能病院にて広報部坂田氏、IT事業部岩下氏と担当者会議開催。経緯説明後「かくどけい」投稿規定改定案を提示、説明を行う。

会議の結果、①目的における対象の範囲、②投稿者範囲、③投稿規定内容等（ホームページ内容と広報誌内容の住み分けなど）について理事会の確認が必要と結論に至った。

7月11日（水）部長会議において本件についての理事会での審議依頼方法（会長諮問による検討事項であるため理事会には直接挙げられない等の理由のため）について確認することとなった。また投稿規定に関する広報部としての「かくどけい」の取り扱いについて、佐藤理事（前広報部部長）に意見を伺いながら継続して検討を行うこととなった。

<平成24年7月11日>

部長会議にて理事会検討事項の審議依頼方法について確認を行う。会長より、Webによる月次報告提出時に、提案時議題として提出可とのことであったため、当日広報部部長、IT事業部部長と協議を行い、必要な時期に議題として提出する旨、確認した。

<平成24年7月26日>

月次報告書及び議事録等会議録、関連資料（投稿規定等改定案）の提出。

坂田広報部部長に前広報部部長の佐藤亮氏（現協会理事）を交えたミーティング開催の依頼。了解を得る。

<平成24年8月1日>

広報部坂田部長より前広報部部長の佐藤理事を交えたミーティング開催日時の連絡あり。

8月23日（木）熊本機能病院 PM6:30～で決定。

<平成24年8月9日>

事務局へ平成24年度部員・委員名簿の提出。委員は平成25年3月末までの任期として2名に依頼。委員は、久保高明氏、松原誠仁氏（いずれも熊本保健科学大学所属）。

<平成24年8月23日>

規約審議委員会、広報部長、佐藤理事を交えたミーティング開催。

7月9日開催のミーティングで検討事項として挙げられた、公益事業として位置づけられた広報誌「かくどけい」の性格や対象の明確化、投稿者の資格、記事の内容等について、投稿規程の条文に関連する部分の検討を佐藤理事の意見を伺いながら行う。

最終的には「一般向け情報誌」としての性格を第一義的におきながら、対象範囲は一般県民、協会会員、行政、関連団体を網羅的に含むことで落ち着いた。

投稿者の資格については、発行主体を原則会員とし、原稿依頼に対応すべく例外規定を条項に盛り込むこととした。記事の内容については編集方針に関連することから、具体的な内容に関しては今年度中に広報部が検討し、組織変更が実施される平成26年を目処に最終的な記事内容を決定し、投稿規程の編集方針を改変することとなった。

なお、一部はホームページとの調整が必要なことから、ホームページコンテンツとの住み分けを明確にしつつ、発行頻度や装丁等についても今後の広報部の検討事項となっていることが申し添えられた。

また本件については、答申書を会長に提出しなければならないことから、経緯も踏まえ近いうちに答申書を規約審議委員会で作成し、確認後会長へ書面をもって答申することを規約審議委員会溝田が申し添えた。

<平成24年8月26日～27日>

合同ミーティング議事録の作成。坂田広報部部長と佐藤理事へ配信。内容の確認依頼。

<平成24年8月28日>

坂田広報部部長と佐藤理事ともに議事録への指摘なし。

<平成24年8月29日>

合同ミーティング議事録をWebで報告。規約審議委員会活動報告を広報誌「かくどけい」原稿として広報部へ送付。

すっかり夏の暑さも通り過ぎ秋の気配を感じる今日この頃、会員の皆様におかれましてはいかががお過ごしでしょうか。勉学の秋!ということで、会員皆様の研修会ご参加を心よりお待ちしております。

それではこれまでの活動報告と今後の事業予定をご案内します。

《活動報告》

『理学療法士講習会（応用編）』

テーマ：「徒手的理学療法-Mulligan Concept：
神経モビライゼーション」

講 師：・Kim Robinson

(PT、徒手的療法認定理学療法士、
Curtin University 大学院
Mulligan Concept 公認講師)

・Toby Hall

(PT、理学修士、徒手的療法認定理学療法
士、Curtin University 大学院
Mulligan Concept 公認講師)

※通訳：藤縄 理先生(埼玉県立大学)

赤坂清和先生(埼玉医科大学)

中山 孝先生(東京工科大学)

松井ランディ正男先生(熊本整形外科病院)

日 時：平成 24 年 8 月 18 日～20 日

会 場：九州中央リハビリテーション学院

参加者：31 名

所 感

本年度の理学療法士講習会（応用編）は徒手的理学療法 Mulligan Concept について、オーストラリアの Curtin 大学より Kim Robinson 先生、Toby Hall 先生をお招きして開催されました。

今回のテーマである神経モビライゼーションとは、神経系に直接モビライゼーションを加え、神経の運動性を改善することで、症状の改善を図る方法です。難治性の根症状や神経由来の痺れ、痛みの症状に威力を発揮する有効な手技の一つです。講義ではメカニズムから適応、実際の治療手技と詳細に渡り分かり易くご説明いただきました。

受講者からは実技練習時間が多くてよかった、講師・通訳の先生方から丁寧に学ぶことができた、臨

床に役立つ知識・技術が身についた、貴重な講義を日本で受けられたことに感謝します、という感想が多く聞かれ、非常に有意義な講習会となりました。

本年度をもって3年にわたり継続した熊本での Mulligan Concept講習会は一旦終了となります。今後も他都道府県でのMulligan Concept講習会は続きますので、興味を持たれた方は是非参加していただきたいと思います。

また学術部は、次年度より新しい理学療法士講習会の企画を進めております。皆様にとって有意義な講習会となるよう準備を進めてまいりますので今後ともよろしくお祈りいたします。



(報告者：熊本大学医学部附属病院 加治哲也)

『第2回学術研修会』終了

テーマ：「カウンター理論に基づく治療
～入谷式徒手誘導と

新たなテーピング治療法～」

講 師：入谷 誠 先生(足と歩きの研究所 所長)

日 時：平成 24 年 9 月 1 日(土) ～2 日(日)

会 場：熊本保健科学大学 2号館 3階

参加者：59 名(会員 46 名、会員外 13 名)

所 感

今回開催された平成 24 年度第 2 回学術研修会は、入谷式足底板で著名な入谷誠先生をお招きし、『カウンター理論に基づく治療～入谷式徒手誘導と新たなテーピング治療法～』と題して、骨盤・下肢に焦点を絞り、臨床で実践可能な内容を中心にご講義頂きました。

入谷誠先生は、神奈川県横浜市を拠点に現在も治療現場で御活躍され、解剖学、運動学を基に個々の歩行・走行を観察し、個人に合った足底板（インソール）を製作されています。その高い治療効果は、各方面に口コミとして広がり、多くのトップアスリートや芸能関係者などが来院されています。

本講習会は、「評価→徒手誘導で確認→テーピング」という流れで、実技主体の講習会となりました。入谷式徒手誘導とは、身体の解剖学および荷重位での力学的観点から人間の動きを変化させる目的で考案されたものです。そして、新たなテーピング治療法とは、入谷式徒手誘導で良好な結果が得られたことを確認し、その方向へキネシオタイプのテーピングを使用して行うものです。これらの一連の評価、徒手誘導、テーピングは、入谷先生の代名詞でもある足底板療法の評価として用いられ、身体運動や動作への応用方法は我々の臨床に多くの気づきとヒントをもたらしてくれるものでした。

実技では受講者の動きや歩行を即座に変化させるデモンストレーションであったため、驚きや感嘆の声が聞かれていました。アンケート結果では、「大満足」「大変良かった」「まだ聞き足りない」「また入谷先生の講習会を開催して欲しい」という声が多数聞かれました。本講習会の内容は、現場で即実践できるものばかりであったため、参加した皆様が日々の臨床で活用されることを切に願います。

最後に、ご協力いただいた関係各位ならびに熱心に受講していただいた会員の皆様に、御礼申し上げます。



(報告者：熊本中央病院 古閑里美)

《予定》

『第 3 回学術研修会』

テーマ：「関節機能解剖と肩関節障害」

講 師：林 典雄 先生

(中部学院大学

リハビリテーション学部 理学療法学科)

日 時：平成 24 年 11 月 24 日 (土)～25 日 (日)

会 場：九州中央リハビリテーション学院

(運動療法室)

対 象：理学療法士、作業療法士、

その他医療専門職

定 員：40 名

申込期間：平成 24 年 9 月 5 日 (水)～10 月 27 日 (土)

※9/6 定員に達しました。

《おわりに》

今年度の事業も残りあと一つとなりました。今年度は総じて受講希望者が多く、キャンセル待ちも出るなど例年を上回る盛況振りでした。今後も会員皆様が必要とする研修会を企画してまいります。今後とも皆様のご協力のほど宜しくお願い致します。

重要！新人教育プログラムの履修履歴修正について

新人教育プログラムの履修履歴修正については、日本理学療法士協会のマイページ上での“お知らせ”の項目と熊本県理学療法士協会のホームページ上の“新着情報”の項目に資料を添付しております。

領収書や生涯学習手帳の複写とともに所定の書類に記載し、日本理学療法士協会まで送付するようになっています。マイページをご確認の上、履修状況に間違いがある方は早急に対応するようにお願い致します。

新人教育プログラムについて

今年度より生涯学習手帳が廃止となり、日本理学療法士協会のホームページ一元的管理となっています。

新人教育プログラムの単位について

新人教育プログラムは 15 単位のうち必須初期研修 5 単位、選択 10 単位となっています。

新人教育プログラム修了処理について

修了処理もマイページ上で行うことになりました。修了単位に達すると、仮修了というボタンが現れますので、そこをクリックすると修了申請が行えます。仮修了から修了に変更されれば、修了処理は完了します。日本協会より新プロ修了証が発行・送付され、マイページ上で新プロ修了が確認できましたら、専門領域研究部会への登録をお願い致します。

専門領域研究部会について

7つの専門領域研究部会から23領域の認定理学療法士に分かれます。認定理学療法士取得の流れについては研修会、講習会、学会等に参加、発表され合計180ポイントを取得し、事例・症例報告またはレビューレポートを作成し、認定理学療法士申請書と同時に申請提出します。それから認定試験を受講する形になっています。ただし、必要条件として新人教育プログラム修了2年以上が対象となっています（右図参照）。

また各専門領域研究部会によっても、ポイントの内容に違いがありますので、ご自分が属されている専門領域研究部会の内容を確認するようにお願い致します（詳細は次ページ参照）。

研修会を受講する際は必ず会員カードご持参下さい
今年度からシステムの一元管理により単位認定する際は会員番号等の情報が必要になります。

※今後、研修会を受ける際は必ず会員カードをご持参下さい。

お問い合わせに関して

ご質問は随時受け付けておりますが、出来るだけメールにてお願い致します。

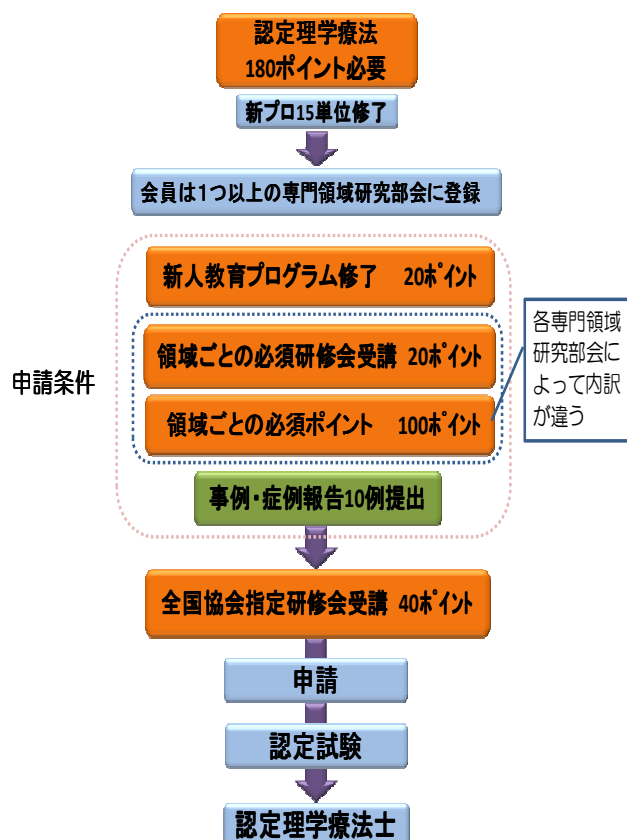
メールアドレスは… kpta.ild@gmail.com

緊急の場合は…

部長：南野大佑（所属：熊本セントラル病院）

096-293-0538

認定理学療法士取得までの流れ



専門領域研究部会

7つの専門領域研究部会から23領域の研究部会にわかれる。

	必要ポイント	内容
新人教育プログラム修了	20	新人教育プログラムを修了し、修了証をもっているもの
協会指定研修会	20	エビデンス(知る・作る)及び倫理に関するもの
	20	リスク管理に関するもの

基礎理学療法研究部会

認定理学療法士(人を対象とした基礎領域)
認定理学療法士(動物・培養細胞を)

	必要ポイント	内容	必須・選択
必須研修会	20		必須
自由選択ポイント	100	「学会参加」で30ポイント以上、「学会発表等」で10ポイント以上が含まれている事。学会発表の内容の認定領域としての妥当性は、基礎理学療法研究部会が審査する。ポイント基準の大項目9には死体解剖資格も含まれる。基礎理学療法研究部会が開催する体験型研修会(20ポイントも含まれる)。その他:都道府県士会主催規模の学会・講習会・研修会等のポイントは、100ポイントのうち最大20ポイントまでとする。 *レビューレポートは別途指定する様式で、申請者の研究テーマを表題にし、そのテーマに関する査読のある論文10本以上(外国後論文5本以上を含む)を参考に作成する。	選択

神経理学療法研究部会

認定理学療法士(脳卒中)
認定理学療法士(神経筋障害)
認定理学療法士(脊髄障害)

	必要ポイント	内容	必須・選択
〇〇必須研修会	20	領域の指定する「〇〇」に関する包括的な内容の研修会	必須
専門領域指定研修会	40	領域の指定する「〇〇」に関する包括的な内容	必須
選択研修会	60	領域の指定する内容を含む研修会・講習会への参加 「学会発表」「論文・著作等」で履修する場合には「〇〇」に関すること、他の領域に係る研修会等での理由も可能であるが、その合計は30ポイント以下であること。	選択

運動器理学療法研究部会

認定理学療法士(運動器)
認定理学療法士(切断)
認定理学療法士(スポーツ理学療法)

	必要ポイント	内容	必須・選択
必須研修会	20	〇〇理学療法に関するもの	必須
講習会・研修会等の受講	80	講習会研修会等の内容の認定領域としての妥当性は、運動器理学療法部会が審査する。ただし、都道府県主催希望の講習会・研修会のポイントは20ポイントを上限とする。	選択
学会参加	20	・運動器:学術大会、分科会学会、WCPT、ACPT、ブロック学会、都道府県学会、関連学会(日本リハビリテーション医学会、日本運動器リハビリテーション学会) ・切断:学術大会、分科会学会、WCPT、ACPT、ブロック学会、都道府県学会、関連学会(日本リハビリテーション医学会、日本運動器リハビリテーション学会日本義肢装具学会)、 ・スポーツ理学療法:学術大会、分科会学会、WCPT、ACPT、ブロック学会、都道府県学会、関連学会(日本臨床スポーツ医学会、日本整形外科スポーツ医学会) ・徒手理学療法:運動器と同様	

内部障害理学療法研究部会

認定理学療法士(循環)
認定理学療法士(呼吸)

	必要ポイント	内容	必須・選択
必須研修会	20	〇〇認定理学療法士必須研修会	必須
学会参加	20	認定領域に関連したもの	選択
選択研修	80	認定領域に関連したもの	

生活環境支援研究部会

認定理学療法士(地域理学療法)
認定理学療法士(健康推進・参加)
認定理学療法士(介護予防)

	必要ポイント	内容	必須・選択
必須研修会	20	〇〇認定理学療法士必須研修会	必須
選択ポイント1	60	〇〇に関するもの	選択
選択ポイント2	40	運動器理学療法、神経理学療法、内部障害理学療法に関するもの	

* 地域理学療法:福祉用具ベーシックセミナー修了者は選択ポイント1、2から40ポイント免除する。
* 地域理学療法:福祉用具アドバンスセミナー修了者は選択ポイント1、2から80ポイント免除する。
* 健康増進・参加:障がい者スポーツベーシック、アドバンスセミナー修了者上記同様
* 介護予防:介護予防のための研修コース修了者は選択ポイント1、2から80ポイントを免除する。
* 補装具:福祉用具ベーシック、アドバンスセミナー修了者上記同様

物理療法研究部会

認定理学療法士(物理療法)
認定理学療法士(褥瘡・創傷ケア)
認定理学療法士(疼痛管理)

	必要ポイント	内容	必須・選択
必須研修会	20	物理療法講習会ベーシックコース	必須
学会発表	20	学会発表の内容の認定領域としての妥当性は、物理療法研究部会が審査する。	選択
その他研修会、学会参加、関連資格	80	物理療法に関連した内容及び物理療法実施に必要な知識・技術の内容であること。妥当性は物理療法研究部会が審査する。	

* 関連資格:20ポイント:物理療法に関連した認定士については、その認定学会会則及び認定基準の書類を提出する。提出書類を基に物理療法研究部会で判断する。

教育管理理学療法研究部会

認定理学療法士(臨床教育)
認定理学療法士(管理・運営)

	必要ポイント	内容	必須・選択
必須研修会・講習会・研修会等の受講	20	教育部主催の〇〇に関する講習会・研修会	必須
学会参加	100	管理・運営:学術大会、分科会学会、WCPT、ACPT 臨床教育・学校教育:学術大会、分科会学会、WCPT、ACPT、関連学会(日本医学教育学会、教育研究大会)	選択
* 臨床教育のみ		* 臨床実習の主たる指導者(1年間に40ポイント)	

保 険 部

部長 河島 英夫

今年度は医療保険と介護保険の同時改定の年となり、例年になく情報収集に追われましたが、個人的には大幅な改定には至らなかったという印象でした。保険部としましては例年と同様に2回の保険診療研修会を開催し、不十分ではありますが会員の皆様に診療・介護報酬の改定点について情報提供いたしました。第1回保険診療研修会には約180名、第2回保険診療研修会には約70名と、多くの方々にご参加いただきましたことに感謝を申し上げます。

部会におきましては、運営に関する反省や会場と駐車場の問題など、さらに会員の皆様に有益な研修会を開催できるように部員一同で検討しております。今後の研修会の企画は会員の皆様からも募集いたしておりますので、ご希望のテーマがございましたら、下記のメールアドレスにメールをお送り頂ければ幸いです。

保険部メールアドレス
hokenbu.kumamoto.pt@gmail.com

今後とも何卒よろしく願いいたします。

福 祉 部

部長 木原 伸一

先日の平成24年9月8日(土)に、九州中央リハビリテーション学院において、福祉研修会を開催しました。

講師を、腰塚勇人(こしづかはやと)先生(講演家、元体育教師・養護教員)にお願いし、テーマを「命の授業～夢を支えるセラピストへの提言～」と題して、参加者の、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、ケアマネジャーに対して、講演していただきました。腰塚先生の大事故をきっかけに、頸椎3～5の脊髄損傷を受傷され、全身マヒの体になられ、ご家族や生徒さん・学校関係者の支え、そしてセラピストや医療関係者の支援と、懸命のリハビリテーションにより、奇跡的に社会復帰できるまでに回復され、事故をきっかけに人生も大きく変化。その体験を通じて、現在は「命の授業」の講演を通して命の大切さを訴え、全国的に活躍されています。

今回の講演では、腰塚先生の夢を支えたセラピスト達や関係者、ご家族の関わりを通じて、患者の視点か

らみた私達への熱い提言をたくさんいただき、「患者様の思いや意見をきちんと聞いて共感しているか」「患者様のやる気のスイッチをとともに探しているか」「ドリー夢メーカーになっているか」「お互いの有限の命を大切に」「自分や人の命の喜ぶ生き方とは」などなど、日頃の業務の中で薄れがちな「大切なこと」へのたくさんの提言をいただきました。腰塚先生の熱心なメッセージに、参加者の中には、感動して涙される方々も多く、とても感動的な研修会となりました。

機会があれば、またぜひ多くの方々に聞いていただきたい内容だったと好評をいただいております。

北里会長や光本理事を含め、ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。

学会・研修会のお知らせ

介護教室

「障害を持つ子供たちの理解」

本協会が例年行っております、教育・療育期間向けの研修会を、下記のように企画しましたので、ご案内申し上げます。今回は、特に発達初期段階である乳幼児期にみられる発達特徴を踏まえた支援と、事例報告を行い、保育の現場における具体的な支援についてご紹介いたします。皆様お誘い合わせの上、是非ご参加下さい。

テ ー マ：「障害を持つ子供たちの理解

～乳幼児期の発達特徴とその支援～

開 催 日：平成24年10月28日(日)

9:30～15:00(9:00受付開始)

会 場：九州中央リハビリテーション学院

〒860-0821 熊本市中央区本山3-3-84

TEL 096-322-2200(代)

対 象：熊本市の療育関係者

(保育士、幼稚園教諭、保健師など)

定 員：50名

参 加 費：1000円

申込方法：①氏名、②所属施設、③職種、④弁当の有無、の4項目をメールアドレス m.namimoto@kcr.ac.jp まで記載し申し込み下さい。宛名は必ず「福祉部研修会申し込み」と記載をお願いいたします。

締め切り：平成24年10月12日(金)

参加申込み・問い合わせ

九州中央リハビリテーション学院

理学療法学科 浪本正晴

電話番号 096-322-2200

FAX 096-322-6464



第10回くまもと「PTあ！（ぴた）」と健康講座 開催報告

平成24年8月5日(日)市民会館崇城大学ホールにて開催いたしました「第10回くまもと『PTあ！（ぴた）』と健康講座」につきまして報告させていただきます。

くまもと『PTあ！（ぴた）』と健康講座とは熊本県民の健康増進を図るとともにリハビリテーション及び理学療法(士)の普及啓発を目的とし平成15年からスタートしました。記念すべき第1回目の講演には当時の熊本県知事を務めておられました潮谷義子氏に講演頂き、それから現在に至るまでRKKアナウンサーの木村和也氏、タレントの毒蝮三太夫氏、熊本赤十字病院整形外科部長の佐久間克彦氏など幅広い方々を講師にお招きし様々な健康や介護に役立つ話などを講演していただきまいました。

そんな健康講座ですが、これまで1つの大きな問題(課題)を抱えておりました。それは、なかなか集客につながらないということでした。そこで今回は第10回という節目の年を迎えましたので大々的に宣伝を行おうということで、ご覧になった方もいらっしゃると思いますがTVや情報誌、新聞などで告知いたしました。目標は大きく1500名と事業部員で決め、準備を行い、ついに本番当日。当日は快晴(暑すぎて熱中症にならないかと心配しました)。開場前から外にはちらほらとお客さんが。混雑も予想していましたが大きな混雑や問題もなくスムーズに受付も流れておりほっと一安心。講演が始まるころには会場の1階はほぼ満席、2階にもちらほらとそんなこんなで集客は約1000名。目標の1500名には及びませんでした。それでも例年の約7~8倍の集客。ほっと胸をなでおろしたところで講演開始。

午前中には千里リハビリテーション病院副院長：吉尾雅春先生より【知れば知るほどおもしろい脳の話】について講演を頂きました。前日の懇親会でのお話も大変興味深いお話だったのですが、講演会ではさらに興味深い「へー、なるほど」というようなお話が盛りだくさん。



午後からは皆さんもよくご存じの(株)人間性脳科学研究所所長：澤口俊之先生より【夢をかなえる脳】について講演を頂きました。

澤口先生の公演ではプロジェクターが映らないというハプニングもありましたが、焦っているのは私だけ。澤口先生は、にこにこことパソコンの接続作業。そんなこんなで数分で解決し、ようやく講演開始。講演中には会場から何度も笑いが起こり大変楽しく興味深いお話を頂きました。

両先生共に一般向けに講演頂いたのですが私たち理学療法士が聞いても興味深い話を織り交ぜて頂き、大変有意義な講演会であったように感じております。

講演会後にはその場にいた人で記念写真をパチリ！またスタッフのEさんは澤口先生の大ファンということで、握手&記念写真にも応じていただきました。ありがとうございました。

開催にあたって様々な不手際や問題もあったのですが、皆様の協力のおかげで無事に終えることができました。今回の反省を次回の講演会、また第20回の記念講演会に活かせるよう進めていきたいと思っております。

これからも皆様の健康増進に役立つような情報発信の場として講演会を開催していきたいと考えております。来年以降も興味を引くような講演会を企画・開催いたしますので是非ご家族やご友人お誘いあわせの上、ご参加いただければと思います。

また開催にあたりご協力頂きました関係者の方々、ボランティアの方々大変お世話になりました。

(事業部長 保田佳史)



学術事業部文献紹介

「Cachexia: pathophysiology and clinical relevance」

著者：John E Morley, David R Thomas,
Margaret-Mary G Wilson

The American Journal Of Clinical Nutrition ;
83 (4) : 735-743.2006

悪液質は様々な進行性疾患(AIDS、がん、COPD、心不全、腎不全など)の過剰な体重減少の原因とされており、その体重減少は主に筋肉量の減少に起因している。飢餓による体重減少では脂肪量の減少が主であるため、ここが異なる点である。

悪液質の主な原因としてサイトカインが挙げられる。サイトカインは炎症によって生じる蛋白質の総称である。全身性の炎症が生じると、細胞傷害を介して免疫系が活性化され、過剰なサイトカイン同化を生じる急性炎症反応を誘発する。

サイトカインの中でもIL-1、IL-2、インターフェロン γ 、TNF- α は特に関与が深いと考えられており、①NF- κ Bの活性化、MyoD蛋白質減少により筋蛋白質合成を阻害、②インターフェロン γ 、TNF- α は蛋白質分解を促進、③ユビキチン・プロテアソーム系を起動させ、異化亢進状態を誘発、④副腎からコルチゾールやカテコールアミンの産生を促し、蛋白質分解や基礎代謝亢進、脂肪分解と β 酸化の増加、⑤肝臓のリポ蛋白リパーゼ活動の減少とそれに伴う高トリグリセリド血症などの作用を有する。以上のようなプロセスにより、エネルギー消費量増加および体重減少につながる。

その他の悪液質の原因としてテストステロン、IGF-1、ミオスタチン、副腎ホルモンが考えられている。テストステロンは炎症性サイトカインを減少させ、IL-10のような抗炎症性サイトカインの産生を促し、筋蛋白質の合成にも関与する。しかし、老化や疾患によりテストステロンは減少する。テストステロン減少は血中レプチン濃度の増加にもつながり、摂食障害や体重減少につながる。IGF-1は成長

ホルモンやテストステロンにより増加し、筋蛋白質合成を促進する。しかし栄養不良状態では減少する。ミオスタチンは筋の成長を抑制するホルモンであり、種々の原因で過剰になることで悪液質を呈する。副腎ホルモンであるグルココルチコイドは蛋白質合成を抑制し糖新生を促進する。これにより筋疾患や耐糖能異常を誘発する一因となっている。

疾患との関係について、心不全、腎不全、COPD、がん、リウマチ、AIDSとの関連が挙げられている。これらに共通していることは、炎症性サイトカインにより代謝や異化の亢進、摂食障害が生じ、その結果著しい体重減少が生じる。

老化との関連性も述べられている。老化は炎症性サイトカインの増加や種々の器官の機能低下により加齢随伴病(アルツハイマー病、パーキンソン病、サルコペニア、骨粗鬆症など)を引き起こす。また、消化器系の運動も阻害される。加齢による炎症性サイトカインの増加は、カテコールアミン過分泌と性ホルモン分泌減少に起因していると考えられている。その結果、摂取エネルギーの減少とそれに伴う体重減少につながっていると考えられている。

悪液質に対しては栄養および薬物療法が主であったが、運動の抗炎症作用の有効性も証明されてきているため、理学療法士も悪液質改善のために積極的に介入していくべきと考える。

(文責：宇野 勲)

『片麻痺回復のための運動療法 第2版 促通反復療法「川平法」の理論と実際(DVD付)』

著者 川平和美

発行者 株式会社 医学書院

近年、脳の可塑性の存在が明らかになり、片麻痺の回復に不可欠な運動下行路の効率的な再建・強化法が求められている。

促通反復療法「川平法」は片麻痺を回復させるために必要な神経路の形成/強化を行うとの観点から、患者が意図した運動を実現・反復する、つまり再建/強化したい神経路のみに繰り返し興奮を伝えることを目的に開発され、これにより試行錯誤なしに大脳の運動野から脊髄前角細胞までの神経路を形成/強化することが可能になった。現在、この促通反復療法に関する実証的検討が各地で進められており、有効性を示す研究結果が報告されている。促通反復療法は、CI 療法や電気刺激療法、経頭蓋磁気刺激法、ロボテック治療などの他の治療の併用によっても、それらの治療効果を大きく高める基礎的な治療法となることが期待されている。ことに CI 療法との併用は患者の負担軽減につながるであろう。

本書の内容は、基礎編と実践編で構成されている。

【主な内容】

基礎編

① 促通反復療法の理論的背景

実践編

② 促通反復療法の反則と基本手技

③ 治療プログラムの立案

④ 上肢への促通反復療法

⑤ 片麻痺下肢への促通反復療法

⑥ 麻痺肢の機能をいかす歩行訓練と合理的な基本動作

⑦ その他の運動療法

今回の改訂にあたって、操作法の動画 (DVD) が追加された。初版の図や写真だけではわからなかった操作の速さや指示のタイミングが明確になっており、臨床の中で多くのセラピストの日々の治療に役立つと思われる。

(文責：佐藤理恵)



「運動連鎖」とは、1800年代には既に機械工学で用いられた用語のようであり、1955年に Steindler がこれを人体に適応して発表することとなった。機械における歯車やシャフトがそうであるように、ある関節における運動の影響が単一関節のみならず他関節に波及することを、人体における「運動連鎖」として定義された。

人体は全身を覆う構造的なつながりを持ち、課題達成に必要な力学的要求に応えるために、中枢神経系がある程度の冗長性を持って運動制御を行っている。したがって、機械では可能な「純然たる単関節運動」を起こすことは不可能である。人体では、どのような運動においても複数分節が協応して制御されているということが理解されている現代においては、もはや「運動連鎖」という用語自体が不要なのかもしれない。

本書では「身体運動学」そのものを「運動連鎖」として扱っており、課題達成のための身体運動を、身体構造・中枢神経性制御・生体工学・心理などの背景因子別に解説してある。また姿勢・動作障害や、不合理な運動方略を「運動連鎖不全」として捉えており、決して特別なものの観かたであるとは考えていない。したがって、骨関節疾患やスポーツ障害のみならず、脳卒中や慢性呼吸器疾患、後期高齢者の生活、小児発達障害など、様々な疾患や場面における評価・治療サイクルやアイデアが提示されている。

実践編において、すべての執筆された先生方に共通するのは、全身の姿勢・運動制御が合目的に行われるように治療を展開・統合しているという点である。本書は、パート1：運動連鎖をどう捉えるか？より始まり、パート2：運動連鎖実践編～評価から治療へと続き、最後にパート3：運動連鎖のメカニズムでまとめている。しかし、診かたや切り口には臨床家の色があり、様々な色を見ることができる1冊だと思われる。

(文責：木口和明)

事務局だより

〒861-8045 熊本市東区小山 2 丁目 25-35
熊本総合医療リハビリテーション学院内
TEL/FAX 096-389-6463
Eメールアドレス kpta_kat@mtg.biglobe.ne.jp
ホームページ http://www.kumamoto-pt.org/

会長行動録

- 7/11 第1回部長会議
:熊本総合医療リハビリテーション学院
- 7/17 組織検討特別委員会
:熊本総合医療リハビリテーション学院
- 7/18 熊本市介護認定審査会
:熊本市健康センター新町分室
- 7/31 九州理学療法士・作業療法士合同学会実行委員会:九州中央リハビリテーション学院
- 8/1 熊本市介護認定審査会
:熊本市健康センター新町分室
- 8/1 第6回理事会
:熊本総合医療リハビリテーション学院
- 8/5 第10回くまもと『PT あ!(ピタ)』つと健康講座:市民会館崇城大学ホール
- 8/7 法人事業審議委員会
:熊本総合医療リハビリテーション学院
- 8/10 熊本市地域リハビリテーション協議会総会
:熊本市医師会館
- 8/15 熊本市介護認定審査会
:熊本市健康センター新町分室
- 8/28 九州理学療法士・作業療法士合同学会実行委員会:九州中央リハビリテーション学院
- 9/5 第7回理事会
:熊本総合医療リハビリテーション学院

会員数 (H24. 8. 31 現在)

賛助会員 10 社 休会会員 166 名

ブロック名	施設数 ()内の自宅会員数を 含んでいます。	会員数
熊本市	272 (65)	1288
県北	69 (12)	211
八代	74 (11)	250
天草	43 (4)	90
県南	17 (1)	41
合計	475 (93)	1880

掲示板

■ 異動・休会・復会・退会等の手続きについて

次のいずれかにより手続きください。

① Web 申請

日本理学療法士協会ホームページよりご登録ください。

② 書類による申請

届出用紙を熊本県理学療法士協会事務局へ郵送ください。

また外異動・入会・休会・復会・退会に関し熊本県理学療法士協会書式による書類の提出が必要です。各種届出書式に関しては、熊本県理学療法士協会会員名簿をご参照下さい。尚、書式は当協会ホームページよりダウンロード可能です。ご活用下さい。

ご不明な点は事務局までご連絡下さい。

■ 平成 24 年度の新しい会員名簿を作成します。

異動・変更のある方は、お手続きください。

■ 平成 23 年度会費納入について

昨年度の会費が未納の方は、速やかな会費納入にご協力お願い申し上げます。

■ 平成 24 年度会費納入について

今年度の会費が未納の方は、日本理学療法士協会より送付されるコンビニ・郵便局用の払込票にて早急に納入下さいますようご協力お願い申し上げます。



大 観 望

『成長』

法人事業審議委員会委員長
有明成仁病院
大籠 安男

私の勤務施設は病院、老健、デイケア、デイサービス、訪問リハビリスタッフを配置するため、多くのセラピストを雇用している。さらに、2年前に回復期リハ病棟を立ち上げたため、他施設同様リハスタッフの数もここ数年で右肩上がりである。リハ部門の組織的な成長のために、我々の施設でも当然スタッフ教育が課題となる。

新人の成長を促すための新人教育、リーダーの成長を促すためのリーダー教育。日々、試行錯誤である。臨床実習もしかり、実習指導者の成長を促すための研修会参加、勉強会実施などなど。もう一つ、臨床実習においては非常に悩まされるケースの経験から得たものがある。いくつかあるが、その一つは臨床実習施設としての役割とその範囲についての確認。もう一つは臨床実習の主役は学生であることの確認。分かってはいるが実践するのはなかなか難しい。そして得た課題は、我々は「社会性を含め総合的な学習（気づき）の援助」を提供するという内部方針をしっかりと共有すること。困難事例におけるスーパーバイザー等に対するメンタルサポート（通常業務とのバランス保持や学習支援へのモチベーション維持のためのサポート）をどのように行っていくか、という点である。ここにも我々の更なる“成長”の要素がある。

数年前、当時の全国理学療法士協会の教育局長とお話しさせていただく機会を得た。印象に残った言葉の一つが、「理学療法を後輩へ“伝承”しなければならない」である。私は“伝承”という言葉にグッときた。やはり理学療法教育が卒前・卒後のカリキュラムにある、いわゆる専門知識の習得にとどまらないことを言われている気がする。理学療法を持つ“力”と“魅力”を知っているがゆえに、それを伝えていきたいとの思いは強いが、その見返りを求めるのではなく、それを気付かせられるような臨床実習教育、新人教育、リーダー教育を提供できるように考え続けていきたい。やはり私自身の成長が Key であろう。

『夜間部の学生達』

選挙管理委員会委員長
九州中央リハビリテーション学院
奥村 哲生

まだまだ厳しい暑さが続いておりますが、会員の皆さまにおかれましては如何お過ごしでしょうか。私は趣味のゴルフのやり過ぎで、こむぎ色を通り過ぎて黒光りする肌になってしまいました。

さて、現在私は九州中央リハビリテーション学院に在職しております。当学院には夜間部があり、18時～22時という時間帯に開講しております。夜間部の特徴としては、まず昼間に仕事をしている学生さんが大半を占めているということです。仕事をするにより、学費や生活費など経済的な面でのメリットがあります。また、クラス内には、一度社会を経験した者、大学を卒業してすぐの者、高校を卒業してすぐの現役生、中には自分で会社を起こして今では社長の地位に立つ者など、経験や年齢の違うものすごく濃い集合体です。

皆さんも感じておられるとは思いますが学生の思考過程または姿勢・態度の低年齢化が危惧される昨今、学生にして昼間の仕事などにより社会人としての経験を積む、また、今までの経験や年齢の違いがある環境の中、同じ目標に向かい生活するため、それぞれの人間性を高め合うことができます。特に高校を卒業してすぐの「現役生」は、自分自身と経験や年齢の違う人との関わりによって、社会での対応や行動、マナーなどを学ぶ事ができるため、講義以上の貴重な経験が得られていると思います。

医療に携わる者は対象となる人々に信頼されなければ成り立たない仕事です。そのためには、人間性や社会性を磨く（成長させる）ことが必要です。夜間部には成長するための環境があります。

夜間部の学生達には新しい付加価値がついていると思います。





県南ブロック

藤井 崇浩

いま日本では、様々な問題が議論されています。韓国との竹島問題、中国との尖閣諸島問題、原発再稼働問題、消費税増税、オスプレイの配備など、山積しております。領土問題は、高校時代日本史専攻であったにもかかわらず知識としてあまりなく、勉強不足なのか、それともデリケートな問題であるがゆえに教科書にも記載されていなかったのか・・・。

領土問題に限らず、昔学習したことが、今では誤りあるいは詳細不明となっている事柄もあります。源頼朝と教わった肖像画は足利尊氏の弟直義、足利尊氏と教わった騎馬武者像は高師直と言われておりますし、聖徳太子に至っては実在しなかったという説を唱えている方もあります。

同様のことは医学の領域でもあり、学生時代に習ったことが現在では否定されていたり、別の仮説が有力視されていたりという事柄が結構あります。いくつになっても、学び続けないといけないという所以だと思います。

岡山大学大学院教授で心臓外科医の佐野俊二氏は、月刊誌のインタビューで「現役の医師である限りは、常に今日よりは明日、明日よりも明後日とレベルアップし続けなければならない」（『致知』2012年9月号）と語っています。職種は違って、われわれ理学療法士にも当てはまることだと思います。

さて、県南ブロックでは7月25日にくまもと芦北療育医療センターの担当で、重症心身障害児の「姿勢ケア」をテーマに、勉強会を行いました。症例報告の形式で、施設で実施されている映像や画像を提示していただきました。重心

児に接することが少ない会員にとっても、貴重な示唆を得ることができたようでした。また、7月27日には、水俣芦北地域で働くPT・OT・ST合同の懇親会が開かれました。4月に採用された新卒者の方々もお見えで、楽しい会となりました。県全体から見るとセラピストが少ない地域になりますが、そのぶん風通しの良いネットワークを作っていきたいと思います。

9月には、白梅の里の担当で勉強会を行う予定にしております。また、同月には今年度の卒後教育研修会も控えており、知識・技術の研鑽につなげたいと考えます。

八代ブロック

塚島 靖博

今年は残暑がとても厳しく、雨も多いですね。なかなか担当患者さんと、屋外歩行訓練が出来ずに困っています。

八代ブロックの活動としては、9月23日卒後研修会ラポール形成とリスク管理を八代総合病院で予定しています。生涯学習研修会と重なってしまいましたが、たくさんの参加をお待ちしています。

7月8日にスポーツ小委員会による「第11回テーピング講習会 膝関節編」が昨年に引き続いて、球磨病院で開催されました。塚島は参加できなかったのですが、スタッフが2名参加し、伝達講習していただきました。

前回書きましたトカラ列島釣果は、カスマアジ 55-60cm (3-4kg) 3匹、フエフキダイ (2kg)、スジアラ (2.5kg) の5匹でした。6月には57kgのロウニンアジが同じ堤防で釣りあげられたそうです。来年はもう少し早く行ってみようかな？

本院に、9月7日に九州厚生局の指導が入ります。5年ぶりでしょうか？情報は次回お知らせいたします。

皆さんも体調管理に気を付けて、残暑を乗り切りましょう。

天草ブロック

水田 順司

天草ブロックからの活動報告ですが、7月13日に第3回の定例勉強会を開催し、「股関節可動域制限に対する検査とアプローチ～関節編～」と題しまして宮木先生に講師をお願いし、講義と実技を行っていただきました。内容は関節モ

ビライゼーションの基礎から股関節疾患に対するテスト、疼痛誘発テスト等を行い、実際のアプローチとして PIR、関節モビライゼーションについて講義していただきました。28名の先生方に参加をしていただき、パートナーの評価をしながらアプローチまでを実際に効果を出すまでに行い、より実践に近い内容を行っていただきました。



8月18日には天草リハビリテーション研究会恒例のサマーレクレーションでボーリング大会を開催いたしました。各施設 PT、OT、ST 併せて 28名の先生方に参加頂き、2人一組の男女ペアで2ゲーム分の合計スコアで競い、日頃は想像できない先生方の連続ストライクやガーターの連続など珍プレーや好プレーの連続するなか見事第一病院の坂本先生と慈恵病院の中村先生のペアが優勝しました。1位～3位、ブービー賞含め、それぞれペアに賞品をプレゼントいたしました。



9月、10月には本年度テーマであります「股関節機能障害への対応」としまして、軟部組織へのアプローチ、筋機能へのアプローチをテーマに勉強会を開催いたしますので、皆様ご参加の程どうぞよろしくお願いいたします。

また、今年是天草初の PT・OT・ST での合同勉強会を11月に開催する予定です。発表要項も決まり、日時・場所・発表者の選定の方も進んでおりますので、御参加、御協力の程どうぞよろしくお願いいたします。

最後に私事で申し訳ないのですが、8月17～19日にかけて沖縄で開催された国体九州ブロック大会へ成年軟式野球のトレーナーとして帯同させていただきました。対戦相手は一昨年に負け国体出場を逃した鹿児島県代表でしたが、今回は初回より点数を入れる事ができ、3-1で見事勝利する事ができました。9月30日からは国体も始まりますので、本国体での活躍を期待したいと思います。

県北ブロック

菅原 大志

7月11日から14日にかけての九州北部豪雨災害、皆様いかがでしたでしょうか？被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。当ブロック内の会員につきましては、幸い怪我や住宅などの被災は無しとの調査結果でしたので、この場をお借りしてご報告しておきます。

電力不足が心配される中、酷暑が追い打ちを掛けており、熱中症で搬送される方々も多いと聞きます。今までは対象者である高齢者などを心配することが殆どでしたが、連日の真夏日に自分自身の健康管理の大切さを痛感しております。皆様もどうぞご自愛ください。

暑さは大変ですが、夏祭りのシーズンとしては良い条件ですね。県北ブロック内の各地域でもいくつかの夏祭りが開催されました。玉名では納涼花火大会、和水では古墳祭り、山鹿では灯籠祭りなど、好天に恵まれてどのイベントも盛況のようでした。私も久しぶりに灯籠祭りの花火や千人踊りなどを見物しに行き、楽しんできました。

さて、ブロック行事としてご報告すべきイベントは今回は特にありませんでした。この原稿を書いている段階ではまだ終了していませんが、9月9日に卒後教育研修会「リスク管理」「KYT」ダブル開催の予定で、この号が皆さんの目に留まるころには終了している見込みです。詳細については次号にてご報告させて頂く予定です。また、残暑見舞いを兼ねての会員同士の親睦会なども企んでおります。こちらも実施出来ましたらご報告したいと思います。

第17回



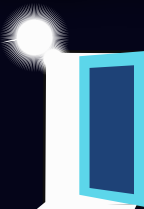
熊本県理学療法士学会

理学療法士が進むべき未来像

We change our future by ourselves.

2013 2・24

熊本保健科学大学



1. 一般公開シンポジウム
「社会が理学療法士に期待すること」
2. 協会会員シンポジウム
「理学療法士が進むべき未来像」
3. 分野別小委員会セミナー 活動報告
4. 指定演題公開セミナー
「学問としての理学療法の未来像」
5. その他展示紹介ブース
福祉用具機器・勉強会紹介・他

私達の未来は
私達が変わる

<学会長挨拶> 学会長 鍋木 誠

拝啓

爽秋の頃、会員の皆さまにおかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、先月ご紹介しましたとおり、第17回熊本県理学療法士学会が「理学療法士が進むべき未来像」をテーマとして開催されます。

今回は、神経・運動器・生活環境領域の県内で活躍されている理学療法士に指定演題として発表して頂く「指定演題公開セミナー」や県協会組織の4つの分野別小委員会からの事業報告など専門領域の情報も満載で開催いたします。多くの皆様が学会へ参加していただける学会に努めて参りますので皆様お誘いあわせの上、ご参加下さい。 敬具

<プログラム内容（予定）>

- 1) 学術発表 : 口述発表・ポスター発表・エキスパート枠 (計40題)
- 2) 指定演題公開セミナー: テーマ「学問としての理学療法の未来像」 神経・運動器・生活環境 (計3題)
- 3) シンポジウム: テーマ「社会が理学療法士に期待すること」
- 4) 協会会員シンポジウム: テーマ「理学療法士が進むべき未来像」
- 5) 分野別小委員会セミナー: 呼吸・糖尿病・小児・スポーツ各委員会からの事業報告
- 6) 展示 (賛助会員・県内で活動している研究会、勉強会案内) ・ 授産施設による飲食売店

<演題募集要項>

- 1) 演題募集期間
演題・抄録締切: 平成24年9月30日(土)
発表スライド提出: 平成25年2月10日(日)
- 2) 発表形式
口述(発表7分 質疑応答3分)
- 3) 演題登録方法
演題・抄録ともインターネットによる登録
県学会ホームページから、学会ホームページにアクセスし、案内に従ってください。登録には県協会HP会員ログインと同じ会員番号・パスワードが必要です。
- 4) 演題登録時の記載内容
①演題名②演者・共同演者名(ふりがな)
③会員番号④施設名⑤部署名⑥キーワード
⑦演題分類番号⑧メールアドレス(採用通知連絡先)

演題分類

1: 中枢疾患	2: 整形疾患	3: スポーツ障害	4: 内部障害
5: 障害児(者)	6: ADL	7: 地域リハ	8: 理学療法教育
9: 理学療法管理・運営	10: その他		

- 5) 抄録の登録
抄録本文は【目的】【方法】【結果】【考察】【まとめ】など小見出しをつけ、全角換算750字以内とします。
- 6) 発表スライドの提出 (CD-Rで郵送)
Windows power point97-2003で作成されたものに限ります。動画・音声出力は対応しません。ファイル名は[発表者氏名_演題名]としてください。

<演題登録問い合わせ・ファイル郵送先>

〒861-8072 熊本市北区室園町12-10
朝日野総合病院 総合リハビリテーションセンター 原賀泰成 宛
TEL: 096-344-3000 E-mail: r-pt1@asahino.or.jp

<展示(研究会・勉強会案内)募集要項>

- 1) 募集目的
勉強会・研修会の活動報告、勧誘など
- 2) 応募条件
・熊本県内で活動している理学療法等の知識、技術研鑽を目的とした研究会・勉強会
・熊本県理学療法士協会会員が中心となった研究会、勉強会であること。
※勉強会・研究会のジャンル、大小は問いません。
- 3) 応募方法
・研究会・勉強会名
・氏名(研究会・勉強会の代表者)
・連絡先(住所・E-mailアドレス)
を明記のうえ下記問い合わせ先までお申込みください。
- 4) 応募期間

平成24年6月4日~9月30日(延長しました)

※応募者多数の場合はスペース関係上調整させていただきます。何卒ご了承ください。

<展示(研究会・勉強会案内)問い合わせ先>

〒861-8072 熊本市北区室園町12-10
朝日野総合病院 総合リハビリテーションセンター 松下時人 宛
TEL: 096-344-3000 E-mail: r-g@asahino.or.jp

<本学会は生涯学習プログラムの単位認定対象です>

本学会は新人教育プログラム・認定理学療法士・専門理学療法士の単位取得認定対象になります。単位認定を希望される方は、生涯学習部へお問い合わせください。

熊本県理学療法士学会ホームページ

熊本県理学療法士協会 HP 学会バナーよりアクセス!

<http://www.kumamoto-pt.org>

心士会 便り福岡

『オ・ア・シ・ス』

小学2年生の長女は、私が26年前に卒業した小学校に通っています。田舎町の通学路は、それこそ私が通っていた頃の風景とあまり変わっていません。そんな道端には古びた看板が残っています。そのなかに『オアシス運動』と書かれた看板を発見、懐かしいですね。ご存知のとおり『オアシス運動』とは、基本となる4つのあいさつ、「オハヨウゴザイマス」「アリガトウゴザイマス」「シツレイシマス（シツレイシマシタ）」「スママセン（スママセンデシタ）」を日ごろから言えるように心がけようというあいさつ運動です。“あいさつを通して明るい社会を”と、今でも推奨されているようです。

40歳を前にして「最近（いまだき）の子は、あいさつせんよね」と言葉を発した矢先、たまたま耳にした話があります。ある若者が、店員さんに「ご馳走様」「ありがとう」と言うことに対して「知り合いでも何でもないのに、馴れ馴れしくない？見ていてイラッとすると話していました。私たちの世代では考えられませんよね。しかし、「最近の子」は凶悪化する事件等の影響で「知らない人に声をかけられたら大声をあげて逃げなさい」と教えられています。そのような「最近の子」は、あいさつする人・される人がどのような気持ちになるのか想像できず、「オアシス運動」と言われても迷っているのかもしれませんが、『あいさつ』とは礼儀として行われる定型的な言葉や動作ですが、そういう感性までも乏しくなっているのかもしれませんが。

若い世代だけに問題があるわけではありません。今の私たちの世代は、「最近の子はあいさつせんよね」と感じる事が多いようですが、「オアシス運動」はなんと1974年から始まっているそうです。それほど前から、「最近の子は…」と言われていたのでしょうか。また、この文章を書くにあたり、次女の幼稚園の園長先生の言葉を思い出しました。「親御さんが子供を連れてくる時に知り合いに会ったとき『“こんにちは”っていわんね！』とよく言われますよね。そういう発言は親御さんの見栄のためです」というものです。確かに、あいさつとは自然に出るものであり、子供に半ば強制的に

「あいさつしなさい」と言うのも考えものです。自分のことは棚に上げて…というのは、いつの時代にもあるようです。どちらの世代も、常識的な感性を育て、自然にあいさつなどの行動に移せる環境作りを行っていくことが重要なかもしれません。

理学療法士という職業において、礼儀という面ではあいさつは必要不可欠なものです。また、自分よりも年齢の高い方と接する機会が非常に多い職業であることを忘れてはいけません。その方々に「最近の子」と不快を与えてはいけません。なにごとにも“させていただく”という謙虚な気持ちを持ち続けたいものです。

いつの時代も、いくつになっても“あいさつを通して明るい社会が出来る”のであれば、「オハヨウゴザイマス」「アリガトウゴザイマス」「シツレイシマス（シツレイシマシタ）」「スママセン（スママセンデシタ）」を言っていきたいものです。

（福岡 No.188）

学会・研修会のお知らせ

理学療法士講習会（基礎）

内部障害に対する理学療法の進め方の基本

【講習会目的】

本講習会は、臨床経験1年から5年ぐらいの協会会員を対象として、本協会補助金を主体に受講者負担を低金額とした運用をすることで、出来る限り多くの会員の参加を図り、専門家としての自覚と自己研鑽に向けた一助となるために基本的な内部障害系講習会を開催する。

【講習会内容】

呼吸器疾患、循環器疾患および代謝疾患（糖尿病）を主疾患、合併症および既往症に持つ患者に対する理学療法を進める際に必要とされるフィジカルアセスメントの基本を教示し、理学療法を進める際のリスク管理についても教示する。

記

テーマ：内部障害に対する理学療法の進め方の基本

開催日：平成24年10月21日（日）

9：00～16：40

会場：熊本中央病院 講堂

〒862-0965 熊本市南区田井島1-5-1

会場までの交通アクセスは、

（<http://www.kumachu.gr.jp/>）をご参照下さい。

講師：呼吸器疾患 千住秀明（長崎大学大学院）

循環器疾患 大重 匡（鹿児島大学）

代謝疾患 原口真由美（熊本セントラル病院）

定員：100名 参加費：2,000円

締め切り：2012年10月1日（月）

参加申し込み・問い合わせ

江南病院リハビリテーション科

理学療法士 筒井宏益

TEL：096-375-1112

FAX：096-362-9826

E-mail：20122102kumamoto@gmail.com



学会・研修会印象記

『平成 24 年度第 1 回特別講演会に参加して』

寺尾病院 渡邊 大輔

平成 24 年 8 月 20 日、城彩苑で開催された医療法人協会リハビリテーション部会主催の特別講演会にて、熊本大学大学院生命科学研究部生命倫理学分野教授の浅井篤先生の講義を受講してきました。

内容は PT・OT・ST に必要な臨床倫理の考え方についてです。過去の事例をもとに医療、介護領域に生じる倫理問題を取り上げ、その考え方について講義して頂きました。日頃の業務でも遭遇しうるケースも紹介され、こういった倫理問題について深く考える良い機会となりました。事例の中でリハビリに関連したものでは、次の事例がありました。

『生活介護を必要とする一人の認知症患者。患者は施設への通所や訪問介護サービスの拒否があるが、退院時に主治医はリハビリを含めた訪問看護を依頼。そしてその介護に苦悩を抱く同居の介護者が、「寝たきりの方が介護しやすいからリハビリはしなくていい」と言われている。』といったケースです。

理学療法士としては、その患者様が自宅での QOL の低下を招かぬよう、訪問リハを通して機能的、能力的にアプローチしていく必要性を感じますが、家族への介護負担も視野に入れて考えるべき問題ではあります。

このような医療側と家族との希望の食い違いが生じたとき、その狭間で我々医療従事者がどのような考え方をするのが理想なのか、家族、本人の意向を尊重しながら、こちらが出来ることを提案していくことの難しさを改めて感じました。現時点で私がこのような場面に直面した時に理想的な考え方ができるのか、正直なところ懸念が残ります。こういった倫理的な問題はケースバイケースでなかなか成解を見出すのは難しいですが、これからの経験の中で患者様や御家族の満足や、自分たちの納得が得られるような経験ができれば、次からもまた考えてみようという意欲につながり、また一度取り上げたような問題は、次からの気付きや対応がやりやすくなり、考え方も身に付いてくるのではないかと思います。これを機会に臨床倫理についての事例検討を積極的に取り組んでいきたいと思っています。

『第 2 回学術研修会に参加して』

熊本機能病院 松田 優子

平成 24 年 9 月 1~2 日に、熊本保健科学大学にて開催された学術研修会に参加する機会を得ました。今回のテーマは、入谷 誠先生による「カウンター理論に基づく治療～入谷式徒手誘導と新たなテーピング治療～」でした。

今回の参加者は県外からも多く、研修会申し込み開始日の夕方には締め切られるという反響だったそうです。先生が考案された入谷式足底板の講習は、3 年待ちの状態であるほど人気で、今回この会に参加できたのが非常に幸運だったと思います。ちなみに入谷先生はサッカー日本代表の香川・本田両選手やオリンピック卓球銀メダリストの福原選手、EXILE のメンバーなどなど数多くの著名人の足底板も作製されたそうです。

講義は、「身体の一つの分節にある方向に力が加われば、隣接する分節には必ず反対方向へ力が加わる」というカウンター理論に基づいた治療について、実技中心の内容で非常に興味深いものでした。

「各分節の皮膚上においても、身体の三平面上での内外側、前後、上下など反対方向への刺激で分節運動が促される」というのが歩行において実際に感じることができ、驚くことばかりでした。効果は数メートルしか持続しないものの、わずかな皮膚刺激や徒手誘導で歩行が変わるため、評価するにあたっては非常に生かすことができるものでした。しかし、その評価が正直とても難しく感じました。まだまだ歩行の観察能力を養っていないとその違いがなかなか分かりません。その評価の繰り返しで問題点を見つけ、実際に数センチのテーピングを貼っていき良好な肢位を維持させる、というのが新たなテーピング治療というものです。しかしテーピングはかぶれ等の皮膚上の問題も発生するため、その点に留意しながら応用していかなければなりません。そのため、できるだけ臨床では皮膚への問題が無い足底板治療へ展開していくのが望ましいとのことでした。

私はソルボセインという素材を用いた機能的足底板 (FOI) を日々の臨床で作製する機会がありますが、入谷式足底板は違った考え方で評価、作製していくものです。今後は入谷式足底板の勉強も併せて継続し、患者さんの症状に即した足底板を作製できるよう努力していきたいと思っています。

医療・介護ナビ

お役立ち便利グッズ紹介

茶碗まくら

握力が低下したり手にしびれがあったりすると、お茶碗を持って食事をするのは大変です。かといって、お茶碗をテーブルに置いたまま食べようとすると、動いたり倒れたりして困ってしまいます。

「茶碗まくら」は、お茶碗やお碗をしっかり固定し、安定させることが出来る滑り止めマット。ドーナツ状の穴にお茶碗を載せるだけ。わざわざ滑り止めつきの食器に変えなくても、愛着のある自分のものを使うことができます。肌触りもやさしいし、これで、片手での食事もぐっと楽にできるでしょう。

サイズはM(直径159^ミ、高さ30^ミ)、S(直径126^ミ、高さ25^ミ)の2種類。ピンク、ブルー、グリーンの3色があり、使用してお茶碗に合わせて選べます。



片手でも楽に食事

お助けハンド

床に落ちた小銭や紙を拾いたいけど、腰や膝や痛くてなかなか屈めないということはありませんか。

「お助けハンド」は柄の先につまみがついた一般にマジックハンド(魔法の手)といわれているもの。家具のすき間や高い所、遠くの物を取るときなど、いろいろな場面で役立ちます。

先端は内側がゴム張り。レシートや鉛筆、鍵などを拾うときも滑りません。大型の持ち手は滑りやすく、全体も軽いので握力の弱い人も大丈夫。ハンドルの後ろに磁石がついており、逆さまにすると、クリップやピンなどの金属類をとることもできます。

ロング(長さ70^{センチ}、重さ137^{グラム})のほか、いすに座ったままや車いす利用者にも使いやすいショート(長さ45^{センチ}、重さ117^{グラム})の2種類があります。



握力の弱い人も大丈夫

ニューセンサーライト LED

手探りで照明のスイッチを探したり、物につまずいたり…。夜の階段や廊下はとても危険です。

「ニューセンサーライトLED」は暗い所で人が近づくとセンサーが反応して自動的に点灯するライト。センサーを動作させたい場合はAUTO、使用しないならOFF、ずっと点灯させて時はONに切り替えができます。センサー作動時は、人がいなくなれば約20秒後に自動的に消灯するので、消し忘れの心配もありません。

電池は単3乾電池3本で、電球寿命は10万時間と経済的。コンセントが要らないので、どこでも使えます。足もとに置いておけば安心です。本体の裏面に穴があり、市販のフックを使用すれば、壁に掛けることもできます。



人に反応し自動点灯



「運動時の息切れへの対応」

運動時に息切れの訴えをされる患者さんがいた場合、その原因によって対応は異なります。

● 低酸素症

体組織への酸素不足により息切れの自覚症状を感じる患者さんがおられます。その原因は大きく3つの病態が考えられます。

- ① 肺での酸素の取り込みが障害され、**血液中の酸素量が減少する低酸素血症**。
- ② 肺での酸素の取り込みは良くても、酸素と結合して組織への運搬を担う役割を持つ**ヘモグロビンが少ない状態、いわゆる貧血状態**。
- ③ 血液中の酸素もヘモグロビンも十分なのに、心臓のポンプ機能の低下によって**体組織へ酸素の運搬量が少なくなる心不全**です。これらの病態により**組織の酸素が足りない病態を低酸素症**と言います。

低酸素血症は SPO₂ が低下するのでわかりやすいですが、**残り二つの病態では SPO₂ では反映されない**ので注意が必要です。原則としてそれぞれの病態に応じた治療が必要です。逆に酸素不足になっても、慢性呼吸不全患者では必ずしも息切れが生じるわけではありません。**低酸素血症と息切れは比例しないことにご注意ください**。

● 肺機能障害

体組織への酸素の取り込みが十分でも、呼吸器疾患患者は換気障害により息切れを生じることがあります。代表的な病態は**COPD（慢性閉塞性肺疾患）**で、高度の気道狭窄により、息が吐きにくくなることが息切れの原因となります。息が吐きにくくなるのは労作時に著明となります。

安静時には呼気障害がなくても、労作によって換気ドライブが亢進すると呼吸数が増加し、息を吐き終わらないうちに次の吸気が始まり、だんだん肺の中に空気がたまっていく状態を**動的肺過膨張**といいます。胸郭がいっぱい膨らんだ状態での呼吸は非常に苦しくなります。この場合、気道を広げるための**気管支拡張剤の使用や口すぼめ呼吸**、ゆっくりとした動作で**労作と呼吸の協調することにより症状が改善**することがあります。

また、まれにですが著しい**拘束性換気障害**により、労作に伴い換気ドライブが亢進しても、深い呼吸ができないため息切れを生じる患者さんもいます。この場合もゆっくりとした動作で対応していくしかありません。

● それ以外の原因

リハビリ時に急に呼吸困難を生じる場合、肺塞栓症を考慮しなければなりません。特に下腿の整形外科術後や開腹術後、長期臥床後の離床開始時など、深部静脈血栓が生じやすい患者には、肺塞栓症が発生する可能性を常に考える必要があります。

深部静脈血栓症の徴候として、下腿の腫脹、ふくらはぎの痛みなどがありますが、**症状がない場合が大半**です。肺塞栓症のリスクが高いと思われる患者のリハビリは主治医とよくご相談下さい。万が一**肺塞栓が発症したと疑われた場合は緊急対応が必要**です。

PT Walker くまもとの理学療法情報 熊本

★通所リハビリテーション

介護老人保健施設、病院や診療所で提供される、利用者の心身機能の維持回復、日常生活の自立を助けることを目的とする、リハビリテーションをいいます。利用者は介護老人保健施設などを訪れてこれらのサービスを受けます。

通所リハビリテーションを利用できるのは、居宅（ここでいう「居宅」には、自宅のほか軽費老人ホームや有料老人ホームなどの居室も含みます）で生活を送る、「要介護」と認定された人です。ただし、主治医が、利用者の病状が安定しており、サービスの利用が必要だと認めた場合に限りします。

★介護予防通所リハビリテーション

介護予防を目的として、一定期間、介護老人保健施設、病院、診療所などで行われる理学療法、作業療法、そのほかの必要なリハビリテーションをいいます。

介護予防訪問リハビリテーションを利用できるのは、居宅（ここでいう「居宅」には、自宅のほか軽費老人ホームや有料老人ホームなどの居室も含みます）で生活を送る、「要支援」と認定された人です。ただし、主治医が治療を必要とする程度について厚生労働省令で定める基準に合致していると認めた場合に限りします。

県内で理学療法士が通所リハビリテーションに所属している施設を地区ごとに紹介します

◆：通所リハビリテーション ●：介護予防通所リハビリテーション

★熊本市ブロック 北地区

- 竜山通所リハビリテーション◆●
- 朝日野デイケアセンター◆●
- 菊南病院通所リハビリテーション◆●
- 寺尾病院通所リハビリテーション◆●
- デイケアほくぶ◆●
- なかがわ整形通所リハビリテーション◆●
- 橋本整形外科内科通所リハビリテーション◆●
- かじお温泉クリニック◆●
- 森田整形外科医院◆●
- 通所リハビリテーションセンター清雅苑◆●
- 通所リハビリテーションぎんなんの里◆●
- 通所リハビリテーションみつぐ苑◆●
- 通所リハビリテーションかなこぎ苑◆●
- 通所リハビリテーション有隣◆●
- ケアビレッジ箱根崎通所リハビリテーション◆●
- ひらせ記念リハビリ苑通所リハビリテーション◆●
- 武蔵ヶ丘通所リハビリテーション◆●
- 合志デイケアひまわり◆●
- くすのきクリニック◆●

★熊本市ブロック 西地区

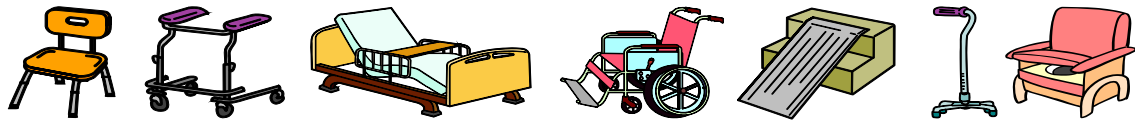
- せいじのデイケアセンター◆●
- イエズスの聖心病院◆●
- 聖ヶ塔病院◆●
- 指定通所リハビリテーション事業所しらつぼ◆●
- 介護老人保健施設青翔苑◆●
- 白藤苑通所リハビリテーション◆●
- 介護老人保健施設なすび園
通所リハビリテーション◆●
- 葵の森デイケアセンター◆●
- デイケア西部リハビリテーション◆●
- はるかぜ通所リハビリテーション◆●



* 熊本県介護サービス情報公表センターのHP(平成24年2月現在)および平成23年10月1日現在の会員名簿を元に作成しています。記載漏れ等ありました場合は御連絡下さい。

賛助会員一覧

施設名	〒	住所	TEL
有園義肢株式会社	866-0815	八代市長田町 3300	0965-33-3983
アメックス熊本株式会社	862-0913	熊本市東区尾ノ上 1-3-9	096-384-6565
(有) 熊本託麻義肢	861-8034	熊本市東区八反田 2-1-49	096-380-8673
(株) 藺田義肢製作所	860-0811	熊本市中央区本荘 4-5-5	096-364-9376
(株) タガワブレース	869-0605	宇城市小川町南部田 1555-1	0964-43-0503
(株) 徳田義肢製作所	862-0971	熊本市中央区大江 6-27-20	096-364-0855
(株) ホワシ	861-8045	熊本市東区小山 5-19-55	096-389-5411
(株) ミタカ	861-3107	上益城郡嘉島町上仲間 850-2	096-237-2257
帝人在宅医療株式会社 熊本営業所	862-0913	熊本市東区尾ノ上 2-23-1	096-360-7333
(有) 三栄商会 サンエイ・メディカル	861-0516	山鹿市中央通 406	0968-43-7755



編集後記

最近、人との出会いや繋がりの大切さを強く感じます。話した事が無い人ともちょっと話してみる事で相手の良さを知り、色々な考えを知る事が出来たり、それにより自分の視野が広がったり新しい発見が出来たりします。

私は、もうすぐ27歳になります。歳を重ねても新しい人との出会いに感謝していきたくですし、多くの方との関わりを大切にしていきたいと思ひます。

(Y・Y)



社団法人熊本県理学療法士協会広報誌「かくどけい」

号 数
発行日
発行人

第105号 通算142号
平成24年9月25日
社団法人熊本県理学療法士協会
〒861-8045 熊本市東区小山2丁目25-35
TEL/FAX 096-389-6463

S T A F F

坂田 大介	岩村 泰年
江口 宏	中野 真実
緒方 美湖	山田祐理子
奥 園 彩	富永 誠
野田 智愛	北岡 千春
渡邊 知子	松本 美香
有馬 正英	古川 晃次
財満 麻美	渡邊 大輔
福田 圭祐	南 留美子
岩見 幸省	野尻 晋一 (表紙)

事業予定表

10 月		11 月		12 月	
日	曜	日	曜	日	曜
1	月	1	木	1	土
2	火	2	金	2	日
3	水	3	土	3	月
4	木	4	日	4	火
5	金	5	月	5	水
6	土	6	火	6	木
7	日	7	水	7	金
8	月	8	木	8	土
9	火	9	金	9	日
10	水	10	土	10	月
11	木	11	日	11	火
12	金	12	月	12	水
13	土	13	火	13	木
14	日	14	水	14	金
15	月	15	木	15	土
16	火	16	金	16	日
17	水	17	土	17	月
18	木	18	日	18	火
19	金	19	月	19	水
20	土	20	火	20	木
21	日	21	水	21	金
22	月	22	木	22	土
23	火	23	金	23	日
24	水	24	土	24	月
25	木	25	日	25	火
26	金	26	月	26	水
27	土	27	火	27	木
28	日	28	水	28	金
29	月	29	木	29	土
30	火	30	金	30	日
31	水	31	月	31	月
<ul style="list-style-type: none"> ●糖尿病ウォークラリー(10/14) ●熊本市ブロック東地区卒後教育研修会(中級編：全人間)(10/18) <10月にて調整中> ●第2回熊本市ブロック北地区勉強会 ●平成24年度上半期事業監査 ●健康のつどい 		<ul style="list-style-type: none"> <11月にて調整中> ●第2回ブロック長・地区長会議 ●熊本市ブロック会議 ●第5回天草ブロック勉強会 ●九州理学療法士・作業療法士合同士会長会議 ●水俣市健康まつり 		<ul style="list-style-type: none"> ●県北ブロック卒後教育研修会(初級編：ラポール形成)(中級編：全人的アプローチ)(12/2) <12月にて調整中> ●「熊日・スミセイさわやか介護セミナー」※12/1(土)か12/9(日) 	

県コード

1	北海道
2	青森
3	秋田
4	岩手
5	宮城
6	山形
7	福島
8	茨城
9	栃木
10	群馬
11	埼玉
12	千葉
13	東京
14	神奈川
15	新潟
16	富山
17	石川
18	福井
19	山梨
20	長野
21	静岡
22	岐阜
23	愛知
24	三重
25	京都
26	滋賀
27	奈良
28	和歌山
29	大阪
30	兵庫
31	岡山
32	広島
33	鳥取
34	島根
35	山口
36	徳島
37	高知
38	香川
39	愛媛
40	福岡
41	長崎
42	熊本
43	大分
44	佐賀
45	宮崎
46	鹿児島
47	沖縄
48	海外

最終学歴

1	中学（旧制小学・高等小学校含む）
2	高等学校
3	専門学校
4	短期大学（旧制高等学校含む）
5	大学（学位授与機構含む）
6	大学院修士課程修了（博士課程前期）
7	大学院博士課程修了（博士後期課程）
8	高等専修学校
9	その他

学位称号

1	なし（学位または称号は有していない）
2	学士
3	修士
4	博士
5	準学士
6	専門士
7	高度専門士
8	その他

施設区分 I

A	B		
1	大学病院	1	厚労省（含：国立病院機構）
2	総合病院	2	文科省（含：国立大学法人）
3	一般病院	3	労働者健康福祉機構
4	老人病院	4	旧三公社（たばこ産業・JR・NTT）
5	小児施設	5	都道府県
6	老人施設	6	市町村
7	教育施設	7	日赤
8	行政機関	8	済生会
9	保健所	9	北海道社会事業協会
10	その他	10	厚生連
11	不明	11	国民健康保険団体連合会
		12	厚生年金事業振興会
		13	厚生団
		14	船員保険会
		15	健康保健組合及びその連合会
		16	共済組合及びその連合会
		17	国民健康保険組合
		18	公益法人
		19	医療法人
		20	私立学校法人
		21	会社
		22	その他の法人
		23	老人福祉施設
		24	身体障害者更生援護施設
		25	児童福祉施設
		26	知的障害者援護施設
		27	その他の社会福祉施設
		28	個人
		29	その他
		30	不明

異動届記載用資料

施設区分Ⅱ

A		B	
1	医療施設	病院	1 大学病院
			2 総合病院
			3 老人病院
			4 小児病院
			5 一般病院(上記以外) 一般病床
			6 一般病院(上記以外) 療養型病床
			7 感染症病院
			8 精神病院
			9 結核病院
			10 ハンセン病院
			11 地域支援病院
			12 その他
2	医療施設	診療所	1 有床診療所
			2 無床診療所
			3 療養型病床群
			4 その他
3	医療施設	不明	1 その他
4	医療福祉中間施設	医療福祉中間施設	1 介護老人保健施設
			2 老人訪問看護ステーション
			3 老人デイサービス
			4 老人デイケア
			5 その他
5	老人福祉施設	老人福祉施設	1 養護老人ホーム
			2 特別養護老人ホーム
			3 軽費老人ホーム
			4 老人デイサービス
			5 老人福祉センター
			6 老人短期入所施設
			7 有料老人ホーム
			8 介護付き有料老人ホーム
			9 在宅介護支援センター
			10 高齢者総合相談センター
			11 その他
6	介護保険法関連施設	介護保険法関連施設	1 地域包括支援センター
7	身体障害者福祉施設	身体障害者更生養護施設	1 肢体不自由者更生施設
			2 重度身体障害者更生養護施設
			3 重度障害者授産施設
8	身体障害者福祉施設	身体障害者療護施設	1 身体障害者療護施設
9	身体障害者福祉施設	重度身体障害者授産施設	1 重度身体障害者授産施設
10	身体障害者福祉施設	身体障害者福祉センター	1 身体障害者福祉センター A型
			2 身体障害者福祉センター B型
			3 在宅障害者デイ・サービス施設
11	身体障害者福祉施設	身体障害者更生相談所	1 身体障害者更生相談所
12	児童福祉施設	知的障害児施設	1 知的障害児施設
13	児童福祉施設	知的障害児通園施設	1 知的障害児通園施設
14	児童福祉施設	肢体不自由児施設	1 肢体不自由児施設
			2 肢体不自由児通園施設
			3 肢体不自由児療護施設
15	児童福祉施設	重症心身障害児施設	1 重症心身障害児施設
16	児童福祉施設	情緒障害児短期治療施設	1 情緒障害児短期治療施設
17	児童福祉施設	児童相談所	1 児童相談所
18	児童福祉施設	心身障害児総合通園センター	1 心身障害児総合通園センター

A		B	
19	精神障害者社会復帰施設	精神障害者生活訓練施設	1 精神障害者生活訓練施設
			2 精神障害者授産施設
			3 精神障害者地域生活支援センター
20	精神障害者社会復帰施設	精神保健福祉センター	1 精神保健福祉センター
21	精神障害者社会復帰施設	精神障害者社会復帰促進センター	1 精神障害者社会復帰促進センター
22	精神障害者社会復帰施設	精神障害者グループホーム	1 精神障害者グループホーム
23	精神障害者社会復帰施設	精神障害者小規模作業所	1 精神障害者小規模作業所
24	知的障害者福祉施設	知的障害者支援施設	1 知的障害者更生施設
			2 知的障害者授産施設
25	知的障害者福祉施設	知的障害者更生相談所	1 知的障害者更生相談所
26	障害者自立支援施設	指定障害者福祉サービス事業所	1 生活介護事業所
			2 自立訓練(機能訓練)事業所
			3 多機能型事業所
27	障害者自立支援施設	指定障害者支援事業所	1 生活介護支援事業所
			2 自立訓練(機能訓練)支援事業所
28	障害者自立支援施設	指定相談支援事業所	1 指定相談支援事業所
29	障害者自立支援施設	指定地域活動支援センター	1 指定地域活動支援センター
30	教育・研究施設	特別支援学校	1 肢体不自由児
			2 知的障害児
			3 その他
31	教育・研究施設	教育・研究施設	1 理学療法3年制専門学校教員
			2 理学療法4年制専門学校教員
			3 理学療法短期大学教員
			4 理学療法大学教員
			5 理学療法以外の大学教員
			6 研究施設
			7 その他
32	行政関係施設	行政	1 保健所
			2 市町村保健センター
			3 国
			4 都道府県
			5 市
			6 町
			7 村
			8 社会福祉協議会
			9 身体障害者福祉協議会
			10 その他
33	健康産業	健康産業	1 スポーツ関係施設
			2 フィットネス施設
34	その他	その他	1 職業センター
			2 リハ関連企業
			3 一般企業
			4 補装具作成施設
			5 訪問看護ステーション(老人訪問看護ステーション)
			6 介護サービス企業
			7 自営・開業
			8 自宅(勤務しているが自宅会員登録)
			9 休業中(会員だが休業しているもの)
			10 その他
35	不明		1 不明

会員異動届

注) 自宅住所を(室番号まで)を必ずご記入下さい。
 自宅会員になった場合は、自宅住所の都道府県理学療法士会に所属となります。自宅住所(室番号まで)・電話番号を必ずご記入ください。
 海外に異動の場合、都道府県士会に所属せず海外会員になることも可能です。
 海外会員になる方は、海外住所(海外勤務先・海外自宅)・国内住所(何らかの連絡がとれる住所)・Eメールアドレスを必ずご記入ください。
 休会中に、自宅住所・氏名等の変更がある場合にも、異動届を提出下さい。

県外異動・県内異動 (○で囲む)	在籍状況	在会・休会 (○で囲む)	提出日	平成 年 月 日			
	変更事項	改姓・自宅住所・勤務先 (○で囲む)	異動日	平成 年 月 日			
フリガナ			旧 姓	会員番号(右詰めでご記入ください)			
氏 名	姓	名	印				
所 属	県内異動	士会所属		入会年度	S・H 年度		
	県外異動	士会から	士会へ	新人教育プログラムの修了	済・未 (○で囲む)		
自 宅 自宅会員は 必ず記入	〒 [][][][] - [][][][][]						
	住所 都道府県			FAX			
	Eメールアドレス						
勤 務 先 自宅会員の場合 ”自宅” と記入する	フリガナ						
	名 称						
	所属部署						
	〒 [][][][] - [][][][][]						
		住所 都道府県		FAX			
施設区分	I	A群	—B群	II	—		
会費納入	本 部 会 費 年度納入済			連絡事項			
	都道府県士会費 年度納入済						
クレジットカード発行 (○で囲む)			済 未				

※ 口座変更を希望される場合は
 クレジットカード裏面コールセンターまでご依頼下さい。

<都道府県士会確認欄>

<士会受付番号> _____

_____ 士会事務局長 _____ 印 _____ 平成 年 月 日

< 個人情報について >

当届用紙より得た情報は、下記の目的以外には使用しません。

1. 名簿管理・発行
2. 協会が発行する機関紙等の発送、及び会員皆様の福利厚生を目的としたご案内等の発送
3. 会員の分布状況の把握 (集計数値を使用します)

社団法人 熊本県理学療法士協会 退 会 届

社団法人 熊本県理学療法士協会長 殿

この度 私は、社団法人熊本県理学療法士協会を退会しますのでお届け致します。

提出日 平成 年 月 日

退会日 平成 年 月 日

氏 名	印	会員番号	
勤 務 先			

※ 勤務先は熊本県理学療法士協会員としての勤務先をご記入ください。

※ 自宅会員の場合、「自宅」と記入ください。

